戸田市文化財調査報告　ＸＸＩ

大前遺跡Ⅰ

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１５

埼玉県戸田市教育委員会

はじめに

埼玉県の南東部に位置する戸田市は、荒川の自然に恵まれ、古くから交通の要衝として発展してきました。現在は交通の利便性から都心部のベットタウンとして市街地化が進み、人口１３万人を超える都市に成長しています。

近年、まちの景観の変化とともに社会的、文化的な環境も変わってきておりますが、古来より受け継がれてきた伝統や文化を守り、人々の絆を一層強いものとするために、文化財の保護が求められています。

今回報告いたします大前遺跡第１次発掘調査は、宅地造成工事に伴い、平成２５年に緊急発掘調査が行われたものです。この発掘調査により、中世に生活を営んだ人たちが遺した貴重な痕跡を多数検出し、当時の人々の生活や土地利用のあり方などを知る良好な資料を確認することができました。本書が、戸田をより深く学習するための一助となることができましたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、ご尽力、ご協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成２７年３月

戸田市教育委員会

教育長　羽富　正晃

例　　言

1．本書は埼玉県戸田市本町３丁目 1902 番１に所在する大前遺跡第１次発掘調査の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は個人事業者による宅地造成工事に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会（担当者：岩井聖吾）が株式会社東京航業研究所の支援を受けて実施した。また、整理作業、報告書作成作業は、戸田市教育委員会が株式会社東京航業研究所の支援を受けて実施した。

3．発掘調査は、平成 25 年 10 月１日から平成 25 年 11 月１日まで行い、整理作業・報告書作成作業は平成 25 年 11 月２日から平成 27 年３月 25 日まで株式会社東京航業研究所事務所で実施した。

4．発掘調査から報告書作成までの事業費は、全て事業者の負担による。

5．本書は埼玉県戸田市教育委員会が刊行した。

6．本書は、岩井聖吾が監修した。編集は岩崎岳彦（株式会社東京航業研究所）が行った。執筆は第１章第２節、第２章第３節，第３章は岩崎岳彦が、その他の部分は岩井聖吾が行った。

7．発掘現場および出土遺物の写真撮影は岩崎岳彦が行った。

8．本書の版権は、戸田市教育委員会が保有する。

9．出土遺物及び発掘調査に伴う各種データ等はすべて戸田市教育委員会が保管し、活用を図るものとする。

10．調査および本書を作成するにあたり、次の方々・機関にご指導、ご協力を賜った。
小島清一　長澤有史　吉田幸一　埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課　公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団　戸田市立郷土博物館　（敬称略　五十音順）

11．本事業は以下の組織により実施した。

【埼玉県戸田市教育委員会】
調 査 主 体 者　戸田市教育委員会
教　　育　　長　羽富正晃
教　育　部　長　山本義幸
次　　長　江添信城（平成 26 年３月 31 日まで）
小沼利行（平成 26 年４月１日から）
生 涯 学 習 課 長　頓所博行
生涯学習課主幹　津田孝一
生涯学習課主事　池上裕康
岩井聖吾（調査担当者）

【株式会社東京航業研究所】
調　　査　　員　岩崎岳彦
発掘調査および資料整理参加者
石割裕次郎　伊東　豊　大熊福太郎　神山　道子　菊池久美子　金野　照子　島田真紀子
立川　英二　殿井貴代子　富永　義昭　中嶋千世子　長江　陽子　永田　正博　野口　芳孝
野村　果央　畠山　真紀　平野由美子　山本　通泰

凡　　例

1．挿図中の地図、検出遺構実測図等の方位は、図中に真北の方位を示した。
2．本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系に則している。
3．遺構番号は調査の進捗過程で、そのプランの確認された順に遺構の種別ごとに付したが、整理・報告書作成作業の過程で遺構番号を振り直している。
　なお、遺構略号は下記のとおりである。
　SA：堀　　SE：井戸　　SX：性格不明遺構　　P：ピット　　SK：土坑
4．本調査では世界測地系に準拠した経緯上に、５m正方のグリッドを設定した。グリッドの呼称については北西隅を基準点に東方向にアルファベット、南北方向にアラビア数字を振り「A－1」のように表記する。
5．発掘調査時の土層観察における色調の記録及び遺物観察における色調は、『新版　標準土色帖』2013年度版（小山正忠・竹原秀雄　編・著者、農林水産省農林水産技術会議事務所　監修、財団法人日本色彩研究所　色票監修、日本色研事業株式会社　発行）を参考にした。
6．遺物拓影図は、断面図の向かって左側に外面を、右側に内面を示した。ただし、外面のみの場合には、向かって左側に外面を示した。また、底面は下に、天井面は上に示した。
7．遺物の種別のうち、弥生時代後期から古墳時代前期初頭に属する土器は、すべて「土師器」と標記した。
8．遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、その他の土器については断面を白抜きにした。
9．遺物実測図中のトーンは次の通りである。
　施釉範囲・赤漆……　　黒漆……　　黒色付着物……
10．遺物観察表法量の（　）の値は残存部からの推定値、＜＞の値は残存高を示す。
11．遺物実測図および遺構実測図の縮尺はすべて挿図中に示した。
12．標高は、T．P（東京湾中等潮位）を基準とした。
13．出土遺物の註記は下記の原則に基づき行った。
　ＯＭ．１．ＳＡ－１．１－上層
　遺跡略号　調査次　遺構略号　遺構番号　遺物番号　層位
14．写真図版中の遺物写真の縮尺はすべて図版中に示した。

目次

はじめに
例　言／凡　例
目次／挿図目次／挿表目次／図版目次
第１章　調査にいたる経緯と経過
　第１節　調査に至る経緯・・1
　第２節　発掘調査と整理作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第２章　周辺環境と調査の概要
　第１節　地理的環境・・3
　第２節　歴史的環境・・4
　第３節　調査の概要・・6
第３章　遺構と出土遺物
　第１節　堀・・9
　第２節　井戸跡・・・13
　第３節　性格不明遺構・・23
　第４節　ピット・土坑・・24
　第５節　その他の出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第４章　まとめ・・36

挿図目次

第 1 図　埼玉県の地形 ・・・・・・・・・・ 3
第 2 図　戸田市域の地形 ・・・・・・・・・・ 4
第 3 図　大前遺跡及び周辺の遺跡位置図 ・・ 5
第 4 図　基本層序模式図 ・・・・・・・・・・ 6
第 5 図　調査区全体図・等高線図 ・・・・・ 7
第 6 図　第 1 号堀実測図 ・・・・・・・・・・ 9
第 7 図　第 1 号堀出土遺物実測図 ・・・・・10
第 8 図　第 2 号堀実測図 ・・・・・・・・・・11
第 9 図　第 2 号堀出土遺物実測図 ・・・・・12
第 10 図　第 1 号井戸跡実測図 ・・・・・・・14
第 11 図　第 1 号井戸跡遺物出土状況 ・・・・14
第 12 図　第 1 号井戸跡出土遺物実測図 ・・・15
第 13 図　第 2 号井戸跡実測図 ・・・・・・・17
第 14 図　第 2 号井戸跡出土遺物実測図 ・・・17
第 15 図　第 3 号井戸跡実測図 ・・・・・・・18
第 16 図　第 4 ～ 6 号井戸跡実測図（1） ・・19
第 17 図　第 4 ～ 6 号井戸跡実測図（2） ・・20
第 18 図　第 4 号井戸跡出土遺物実測図 ・・・21
第 19 図　第 5 号井戸跡出土遺物実測図 ・・・22
第 20 図　第 1 号性格不明遺構実測図 ・・・・23
第 21 図　第 1 号性格不明遺構出土遺物実測図
・・・・・・・・・・・・・・・・24
第 22 図　ピット実測図（1） ・・・・・・・25
第 23 図　ピット実測図（2） ・・・・・・・26
第 24 図　ピット実測図（3） ・・・・・・・27
第 25 図　ピット実測図（4） ・・・・・・・28
第 26 図　ピット実測図（5） ・・・・・・・29
第 27 図　ピット実測図（6） ・・・・・・・30
第 28 図　ピット実測図（7）・第 1 号土坑実測図
・・・・・・・・・・・・・・・・31
第 29 図　ピット出土遺物実測図 ・・・・・・33
第 30 図　遺構外出土遺物実測図 ・・・・・・34
第 31 図　大前遺跡周辺の中世遺跡位置及び
板碑所在 ・・・・・・・・・・・・・37

挿表目次

第 1 表　大前遺跡周辺遺跡の概要・・・・・・ 5
第 2 表　第 1 号堀出土遺物観察表・・・・・・10
第 3 表　第 2 号堀出土遺物観察表・・・・・・13
第 4 表　第 1 号井戸跡出土遺物観察表・・・・16
第 5 表　第 2 号井戸跡出土遺物観察表・・・・17
第 6 表　第 4 号井戸跡出土遺物観察表・・・・21
第 7 表　第 5 号井戸跡出土遺物観察表・・・・22
第 8 表　第 1 号性格不明遺構出土遺物観察表
・・・・・・・・・・・・・・・・24
第 9 表　ピット一覧表 ・・・・・・・・・・31
第 10 表　ピット出土遺物観察表 ・・・・・・33
第 11 表　遺構外出土遺物観察表 ・・・・・・34
第 12 表　遺物集計表 ・・・・・・・・・・・35

図版目次

図版１
１　調査区空撮モザイク写真

図版２
１　調査区全景（北より）
２　調査区遠景（南東より）

図版３
１　第１号井戸跡調査終了状況（南より）
２　第１号井戸跡遺物出土状況（南より）
３　第２号井戸跡調査終了状況（東より）
４　第３号井戸跡調査終了状況（東より）
５　第１号井戸跡調査風景（北より）

図版４
１　第４・５・６号井戸跡調査終了状況（東より）
２　第４・５・６号井戸跡遺物出土状況（東より）
３　第４・５・６号井戸跡調査終了状況（北より）
４　第１号堀完掘（東より）
５　第１号堀遺物出土状況（南東より）

図版５
１　第２号堀完掘（東より）
２　第２号堀遺物出土状況（南より）
３　第27号ピット元祐通寶出土状況（南より）
４　ピット完掘状況・調査区北側（南東より）
５　ピット完掘状況・調査区南側（北東より）

図版６
第１号堀出土遺物
第２号堀出土遺物
第１号井戸跡出土遺物（１）

図版７
第１号井戸跡出土遺物（２）
第２号井戸跡出土遺物
第４号井戸跡出土遺物

図版８
第５号井戸跡出土遺物
第１号性格不明遺構出土遺物
ピット出土遺物
遺構外出土遺物

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

平成 25 年６月、個人事業者から（以下「事業者」という）から戸田市教育委員会（以下「市教育委員会」という）に対し、戸田市本町３丁目 1902 番１における、1,064.00 ㎡の宅地造成および分譲住宅建設事業計画と埋蔵文化財の取扱いについて相談があった。

市教育委員会では、事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地周辺地域に所在しており、開発工事中に埋蔵文化財が発見される可能性が高いため、事業者に対し工事着手前に試掘確認調査を実施するよう指導した。

これを受け、平成 25 年６月 11 日に事業者から市教育委員会に対し試掘確認調査の依頼書が提出され、試掘確認調査を実施することとなった。

試掘確認調査は、市教育委員会が平成 25 年７月８日に実施し、古墳時代～近世の溝状遺構、土坑、ピットとこれに伴う土師器、須恵器、板碑片、陶器を確認した。

この調査結果に基づき、新たに所在を把握した周知の埋蔵文化財包蔵地「大前遺跡（県遺跡 No.：06-013）」として、平成 25 年７月 17 日付戸教生第 498 号にて埼玉県教育委員会（以下「県教育委員会」という）あてに報告および遺跡分布地図、遺跡台帳への登載依頼を行った。

その後、事業者、市教育委員会間で埋蔵文化財の保存について協議をもち、地下管理設工事等で埋蔵文化財の破壊を免れない道路計画予定地（170.00 ㎡）については記録保存のための緊急発掘調査、他の住宅建設予定地（894.00 ㎡）については埋蔵文化財の現状保存を実施することで合意した。

平成 25 年９月 26 日、事業者から文化財保護法第 93 条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、平成 25 年９月 27 日付戸教生第 764 号にて県教育委員会あてに進達した。

これを受けて、県教育委員会から事業者に対し、平成 25 年 11 月 27 日付教生文第４－ 1094 号で、申請地内における工事着手前に発掘調査を実施するよう指示があった。

また、事業者は市教育委員会に対し、平成 25 年９月 26 日付で発掘調査の依頼書を提出し、同日付戸教生第 745 号にて２者による「宅地造成および分譲住宅建設予定地にかかる埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を締結した。

そして、市教育委員会から県教育委員会あてに、文化財保護法第 99 条の規定に基づき、平成 25 年９月 27 日付戸教生第 763 号により埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、大前遺跡第１次発掘調査を実施することとなった。

第２節　発掘調査と整理作業の経過

１．発掘調査

本調査区は、埼玉県戸田市本町３丁目 1902 番１に所在する道路計画部分であり、調査対象面積は 170.00 ㎡である。平成 25 年 10 月１日～２日、機材の搬入及び調査区の環境整備、調査範囲の設定

等から作業を開始した。

10月3日から重機による表土の掘削を開始、翌4日からは表土掘削と並行して調査区北側から遺構の検出作業を開始した。10月4日から10月7日にかけて遺構検出作業を行い、井戸跡1基、堀1条、ピット20基以上を確認した。調査区内には硬化した黒褐色土が広がっており、10月8日からこの硬化した黒褐色土の除去に着手、並行して第1号井戸跡および第2号堀の調査を開始した。10月10日、調査区北側の硬化した黒褐色土の下から第1号堀を検出、調査を開始した。10月17日、調査区中央北寄りの地点からピットを多数検出。第1号井戸跡、第1号堀の調査と並行してピット群の調査を開始。第2号堀は水の湧出が見られたため、調査を中断。10月21日、黒褐色硬化面の下から第2号井戸跡を検出、調査に着手する。10月22日、調査区中央南寄りから第4号井戸跡を検出。当初想定した確認面より低いレベルからの検出であったため、周辺に堆積する黄褐色土は地山ではなく二次堆積によるものと判断し、周辺の精査を行った。10月24日、第2号井戸跡および第4号井戸跡の間から井戸跡1基を検出、調査を開始する。また、第4号井戸跡と切り合う2基の井戸跡を検出、第5号、第6号井戸跡として調査を開始した。10月28日、調査区中央のピット群を調査。10月31日、第2号堀の調査を再開。ポンプによる排水を行いながら底面まで掘り進め、下端形状を確認した。同日、全ての遺構の調査・記録を完了し、重機により調査区の埋め戻しを行った。11月1に機材等を搬出し、現地調査をすべて完了した。

2．整理作業

当該調査にかかる出土遺物及び図面の整理作業、報告書作成作業は平成25年11月2日から平成27年3月25日まで実施した。

整理作業は遺物の洗浄・注記より開始し、平成25年12月には遺物の接合に着手した。平成26年7月には報告書掲載遺物の抽出を実施、遺物実測図および拓影図を作成し、スキャナにてコンピュータに取り込んだ後、AdobePhotoshopおよびAdobeIllustratorを用いて修正、調整を行った後TIFF形式にて画像ファイル化を行った。

遺構平面図、断面図、エレベーション図等の図面類については、平成25年11月より第1原図をスキャナでコンピュータに取り込み、デジタルデータ化を実施した。その後図面データはIllustratorを用いてデジタルトレースを行い、遺構全体図および個別図の作成を行った。

発掘現場で撮影した写真等については、Canon Eos5Dを使用して撮影した。遺物写真についてはNikonD3000を使用して撮影した。その後写真データはPhotoshopにて縮尺、背景等の調整を実施した。全てのデータが完成した後IllustratorおよびAdobeInDesignにて版下を作成し、INDD形式ファイルにて入稿した。

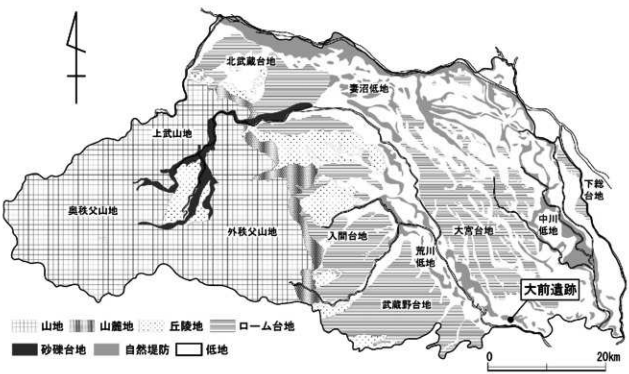
第２章　周辺環境と調査の概要

第１節　地理的環境

大前遺跡が所在する戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約 6.0km、南北約 3.0km、面積 18.17 ㎢の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市と川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市と和光市、南の東京都板橋区と北区には荒川を隔てて接している。市域には国道 17 号線（中山道）や新大宮バイパスが南北に走り、また首都高速５号線や東京外郭環状道路、JR 埼京線の開通により、交通の利便性が高まり急激な市街地化が進んでいる。また、都心に近い立地のため、工場や流通センターなども数多く所在する。

戸田市の地形は、埼玉県西部の山地に端を発する荒川によって形成された平坦な沖積低地（荒川低地）が全域を占める。荒川は氾濫や流路の変更によって、市域の中央部を西は美女木から上戸田を通り、東は川口市にかけて自然堤防を形成している。

大前遺跡は、今回の発掘調査をきっかけに新たに所在が確認された遺跡である。遺跡は、JR 埼京線戸田公園駅から西に約 400m、戸田駅から南西に約 1,000m の位置に所在する。大前遺跡は荒川左岸に形成された自然堤防の南東側縁辺部に立地する。この自然堤防は荒川旧河道に沿うように発達し、戸田市域では美女木から笹目を通り、本町、上戸田を抜けて川口市へと断続的に延びる。大前遺跡周辺では、西から延びる自然堤防が一度途切れており、南東方向へ緩やかに傾斜する地形が広がっている。



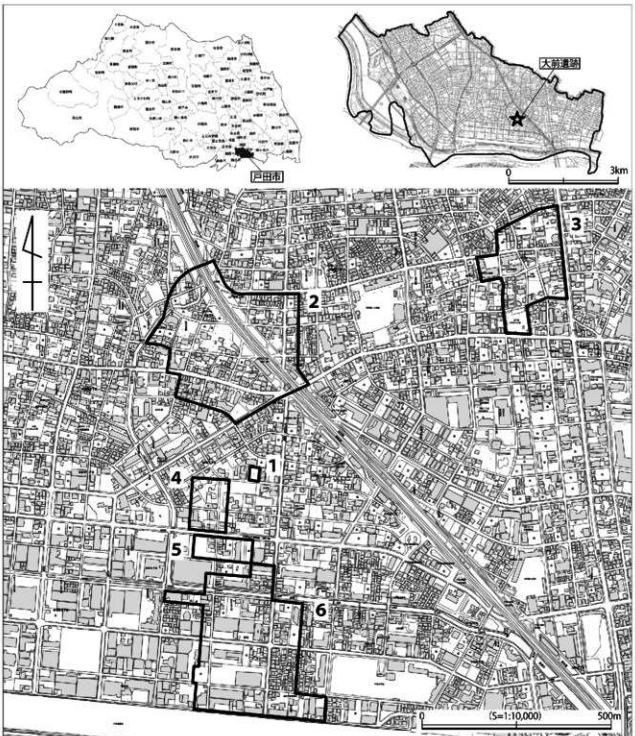
第１図　埼玉県の地形

第２節　歴史的環境

戸田市では旧石器時代の遺構・遺物は確認されておらず、過去の生活の痕跡が見え始めるのは縄文時代からである。現在、縄文時代に帰属する遺跡は確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が確認されている。縄文時代前期では、堤外から前期後葉諸磯ａ式の破片資料１点が出土しており、本町からは前期末十三菩提式深鉢形土器の大型破片１点が出土している。縄文時代中期では、中葉から後葉にかけての遺物が出土している。鍛冶谷・新田口遺跡では勝坂式や加曽利Ｅ式の破片資料の出土が報告されており、南原遺跡などでも阿玉台式や加曽利Ｅ式期の土器片が微量ながら検出されている。縄文時代後期は、前葉から中葉にかけての遺物が検出されている。鍛冶谷・新田口遺跡では堀之内式、加曽利Ｂ式の土器片が出土しており、堤外からも同型式期に帰属する土器破片が出土している。

縄文時代後期後葉から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期から古墳時代前期になると、戸田市域の自然堤防上に多くの遺跡が形成されるようになる。弥生時代後期から古墳時代前期では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上戸田本村遺跡、根木橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも昭和51年に埼玉県選定重要遺跡に選定された鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓（周溝状遺構）群や集落跡、木器の出土などから全国的に有名である。上戸田本村遺跡では、２次・３次調査において環濠と思われる溝状遺構と、溝の東側に密集する竪穴住居群を検出しているため、上戸田本村遺跡周辺に当該期の環濠集落が存在した可

第２図　戸田市域の地形



第３図　大前遺跡及び周辺の遺跡位置図

第１表　大前遺跡周辺遺跡の概要

No.	遺跡名	所在地	種別	時代	立地
1	大前遺跡	戸田市本町３丁目	集落跡	古墳前期・平安・南北朝・室町	自然堤防
2	観音谷・新田口遺跡	戸田市上戸田３・５丁目、本町３丁目、大字新曽	集落跡	弥生後期・古墳前期	自然堤防
3	前谷遺跡	戸田市上戸田２丁目	集落跡・墨跡跡	弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町	自然堤防
4	上戸田本村遺跡	戸田市本町３丁目	集落跡・円墳	古墳後期	自然堤防
5	南町遺跡	戸田市南町	集落跡	古墳前期	自然堤防
6	南原遺跡	戸田市南町	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前／後期・奈良・平安・鎌倉	自然堤防

能性が高い。

古墳時代中期の遺構・遺物が検出された遺跡は少なく、南原遺跡２次調査Ｂ区で住居跡３軒、９次調査で井戸跡１基、10 次調査で住居跡１軒と土坑２基が確認されたのみである。

古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田本村遺跡内にはかつて「くまん塚」と呼ばれた古墳が所在した。「くまん塚」は円墳で、墳丘の盛り土が僅かに残存しており、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀２振が出土したとされている。また、上戸田本村遺跡では１次調査において鬼高式期の住居跡２軒、4 次調査において馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が１基検出され、南原遺跡では、2 次調査Ａ区で円形周溝墓（円墳）１基、3 次調査Ｄ区で鬼高式期の住居跡１軒と屋外竈１基、4 次調査で円形周溝墓（円墳）２基、6 次調査で円形周溝墓（円墳）１基、８・9 次調査で馬形埴輪、人物埴輪、家形埴輪、円筒埴輪等が出土した古墳周溝が１基、埴輪を有さない古墳周溝が１基検出されている。

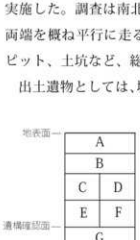
平安時代は、南原遺跡や鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴住居や掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、ピット列等が検出されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部の地域がかつての佐々目郷（篠目・笹目）に該当し、鶴岡八幡宮の社領であったことが文献史料からわかっている。当該期では、大前遺跡や前谷遺跡、上戸田本村遺跡、南原遺跡、南町遺跡、美女木八幡社脇遺跡で掘立柱建物跡や溝状遺構、井戸跡が検出されている。前谷遺跡や南原遺跡、上戸田本村遺跡からは断面が薬研形の溝状遺構が検出されていることから、『新編武蔵国風土記稿』の桃井氏の居城であったとされる「戸田の御所」や渋川氏の居城であったとされる「蕨城」との関連が指摘されるが、未だその明確な位置や検出された遺構との関係性については明らかになっていない。

第３節　調査の概要

大前遺跡は、本調査が第１次調査にあたり、平成 25 年 10 月１日～ 11 月１日の期間で発掘調査を実施した。調査は南北約 30 ｍ、東西約５ｍの調査区内にて実施された。検出された遺構は調査区の両端を概ね平行に走る２条の堀、東西５ｍの幅内に密集して並ぶ６基の井戸跡、総数 108 基に及ぶピット、土坑など、総調査面積 170 ㎡と狭小な範囲ながら多数の遺構を検出した。

出土遺物としては、堀、井戸跡から出土した総数９点の板碑片や土釜、常滑焼の甕、また、第 27 号ピッ



基本層序模式図　土層説明

Ａ層　表土撹乱層
Ｂ層　10YR3/2　黒褐色土　しまりあり、粘性なし。赤色粒φ１～2mm微量、黄褐色土粒φ3～4mm多量。黒褐色土硬化面。
Ｃ層　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性なし。黄褐色土粒φ5mm少量、赤色粒φ1mm微量。
Ｄ層　7.5YR5/6　しまりあり、粘性ややあり。粘土、黄褐色土、焼土がマーブル状に混入する。
Ｅ層　7.5YR4/4　しまりあり、粘性なし。炭化物φ2～3mm、焼土φ1mm、黄褐色土粒φ1mm少量
Ｆ層　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性あり。鉄分沈着の暗褐色土および黒色土が層状に入る。
Ｇ層　2.5YR5/6　黄褐色土　しまりあり、粘性あり。地山
Ｈ層　5Y6/2　灰オリーブ土　しまりあり、粘性あり。地山。グライ化により灰色を帯びる。

第４図　基本層序模式図

第５図　調査区全体図・等高線図

トから出土した北宋銭「元祐通寶」など、往時の人々の生活の様相を示す、コンテナ８箱に及ぶ中世から近世初頭の貴重な資料を得ることが出来た。

基本土層は発掘調査時に観察していないが、各遺構の切り合い関係および壁セクションから基本層序と思われるものを模式的示したものが第４図である。各層位については、同一層と判断されるものを遺構断面図中に示しが、Ａ・Ｅ層以外の層は調査区内で普遍的に認められるものではないことを追記しておく。

第３章　遺構と出土遺物

第１節　堀

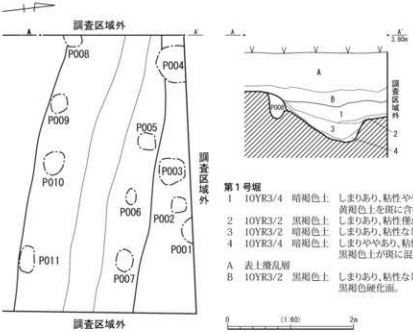
第１号堀－ SA01

遺構（第６図　図版４－４・５）

位置：A・B－１グリッド。重複関係：第４号ピットに切られ、第５・６・７・８・９・10・11 号ピットを切る。規模・形状：調査区内では、452 ㎝を測るが調査区外へN－69°－Wの傾きで東西方向へ延びる。計測値は上端幅 196 ㎝、下端幅 52 ㎝、確認面からの深さは 78 ㎝を測る。堀の断面形状は「Ｖ」字形を呈するいわゆる薬研掘である。掘り方は南側では傾斜角 36 度とややゆるやかに掘り込まれるのに対し、北側では 67 度と急傾斜で掘り込まれる。また、北西角部は平坦に造られ、テラス状を呈して調査区外に広がるが、第４号ピットに切られ、形状を正確に確認することが出来ないため、第６図では、現状確認できるテラスの端をもって第１号堀の上端とした。覆土：推積状況から自然堆積によるものと考えられる。その他：底付近からは水の湧出を確認した。第４号ピットを除く重複するピットは覆土平面分布では検出できなかったことから、堀に先行、または同時期と考えられる。また、堀と平行して並んでいることから、架橋のための柱列の可能性が考えられる。

遺物（第７図　第２表　図版６）

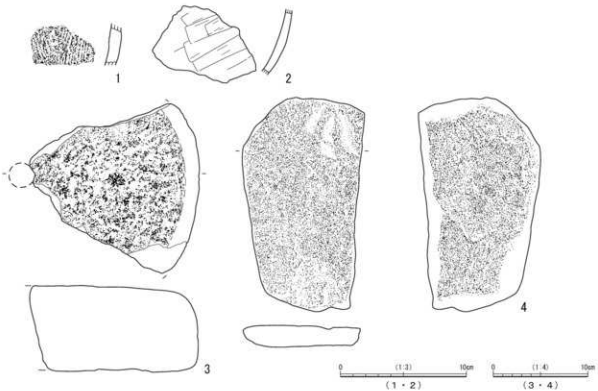
出土状況：覆土からは板碑のほか石臼などが出土した。また、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器の甕が確認されているが、覆土からはより新しい時期の遺物が出土しているため、流れ込みによるものと思われる。



第６図　第１号堀実測図（SA01）

時期

出土遺物から、中世末から近世初頭と考えられる。



第７図　第１号堀出土遺物実測図（SA01）

第２表　第１号堀出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（推定口径）（cm）	底径（推定底径）（cm）	器高（残存高）（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
7-1 6-SA01-1	SA01	土師器	甕	胴部	破片	－	－	－	外面に刷目を施す。	シャモット・白色粒・雲母	良好	7.5YR8/6 浅黄橙色	弥生時代後期～古墳時代前期
7-2 6-SA01-2	SA01	土師器	甕	胴部	破片	－	－	－	胴部外面ヘラナデ。外面に黑斑。	シャモット・赤色粒・雲母・石英	良好	10YR8/3 浅黄橙色	外面黑色物付着。弥生時代後期～古墳時代前期

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	推定年代	石材	備考
7-3 6-SA01-3	SA01	石製品	石臼	下臼	－	－	－	－	摩滅により、分画は不明。心棒穴は上下から穿つ。	－	安山岩	
7-4 6-SA01-4	SA01	石製品	板碑	身部	1/4以下	22.5	12.5	2.3	上段梵字（キリーク（阿弥陀）蓮座）、紀年銘「建武」か。	1334年？	緑泥片岩	多福院蔵「建武二年」銘碑と同意匠。

第２号堀－ SA02

遺構（第８図　図版５－１・２）

位置：A・B－６・７グリッド。規模・形状：調査区内では 418 ㎝を測るが、さらにN－86°－Wの傾きで東および西へ延びるものと考えられる。計測値は上端幅 456 ㎝、下端幅 128 ㎝、確認面からの深さは 148 ㎝を測る。堀の断面形状は壁面の傾斜等から底が「V」字を呈す、薬研掘であると考えられるが、底面付近では砂層となり、また、水の湧出が激しく正確な形状の確認は困難であっ

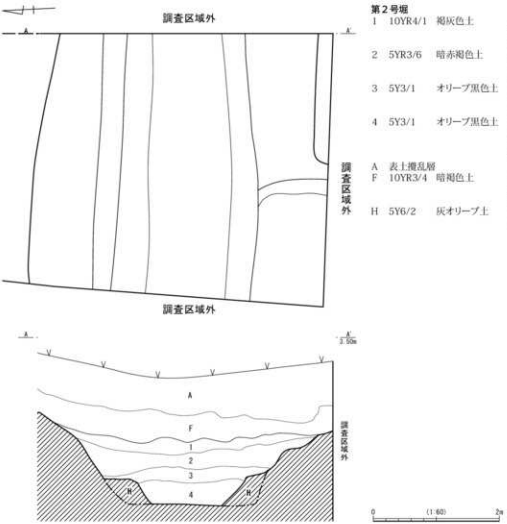
た。掘り方は傾斜角約 55 度でやや急傾斜で掘り込まれる。調査区南西の平坦に作り出された箇所は、取水の為の施設と考えられる。覆土：堆積状態は自然堆積によるものと考えられる。層中、１・２層の鉄分沈着層は遺構壁面でも類似の様相を確認しており、その下層でも繊維状の物質を多量に含む粘性の強い層か確認出来ていることから、埋没後も長期間にわたり水をたたえていたと考えられる。確認面からの深さ 92 ㎝で地山にグライ化が認められるため、最低水位は標高 130 ㎝であったと推測される。

遺物（第９図　第３表　図版６）

出土状況：覆土からは板碑片のほか、カワラケ、常滑産の甕が出土した。また、９世紀前葉の須恵器坏が確認されているが、覆土からはより新しい時期の遺物が出土しているため、流れ込みによるものと考えられる。

時期

出土遺物から、中世から近世初頭と推測される。



第２号堀

1	10YR4/1	褐灰色土	しまりあり、粘性あり。粘土状の層。鉄分沈着の暗赤褐色が斑点状にやや入る。
2	5YR3/6	暗赤褐色土	しまりあり、粘性ややあり。沈着した鉄分を多量に含みカリカリしている。
3	5Y3/1	オリーブ黒色土	しまりあり、粘性あり。ヘドロ状の層。繊維状物質を含み、黄褐色土粒φ1～2㎜微量。
4	5Y3/1	オリーブ黒色土	しまりややあり、粘性ややなし。構成している土は４と同様だが大量の砂粒を含み砂粒が主体をしめる。
A	表土攪乱層		
F	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性あり。鉄分沈着の暗褐色土及び墨状の黒色土が層状に入る。
H	5Y6/2	灰オリーブ土	しまりあり、粘性あり。地山。グライ化により灰色を帯びる。

第８図　第２号堀実測図（SA02）

第９図　第２号堀出土遺物実測図（SA02）

第３表　第２号堀出土遺物観察表

掲図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（推定口径）（cm）	底径（推定底径）（cm）	器高（残存高）（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
9-1 6-SA02-1	SA02	カワラケ		口縁部～底部	95	10.0	5.6	3.4	ロクロ成形。左回転糸切り離し。口縁部直上に稜線を巡らす。口縁部内外面および体部内面に黒色付着物を有し、有用油に転用されたと思われる。	赤色粒・雲母	良好	7.5YR7/6 橙色	
9-2 6-SA02-2	SA02	須恵器	坏	口縁部～底部	40	(12.7)	(7.5)	3.6	ロクロ成形。内外面回転ナデ。左回転糸切り離し後ヘラケズリ。	白色粒・雲母・石英	良好	5YR7/1 灰白色	東金子産 9 世紀前葉
9-3 6-SA02-3	SA02	陶器	甕	頸部	5	－	－	－	大きく外反する。胴部内外面に鉄釉を施し、外面の一部に灰釉が見られる。	白色粒・石英・雲母	良好	10YR7/1 灰白色	常滑焼
9-4 6-SA02-4	SA02	土師質土器	火鉢	口縁部～胴部	破片	－	－	－	口縁部平坦。口縁部下外面にスタンプ（菱文）を巡らす。摩滅のため調整は不明。	赤色粒・白色粒・石英・雲母	良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	

掲図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	推定年代	石材	備考
9-5 6-SA02-5	SA02	石製品	板碑	身部	1/4 以下	26.0	20.6	3.2	主尊種子「キリーク（阿弥陀）」		緑泥片岩	
9-6 6-SA02-6	SA02	石製品	板碑	身部	1/8 以下	18.5	12.7	1.9	主尊種子「キリーク（阿弥陀・異体種子）」		緑泥片岩	
9-7 6-SA02-7	SA02	石製品	板碑	身部	破片	12.4	5.9	1.7	表面縁部に研磨痕。鳴石に転用か。		緑泥片岩	
9-8 6-SA02-8	SA02	石製品	板碑	身部	破片	8.5	7.0	1.6	銘文は判読不明。		緑泥片岩	

第２節　井戸跡

第１号井戸跡－ SE01

遺構（第 10・11 図　図版３－１・２・５）

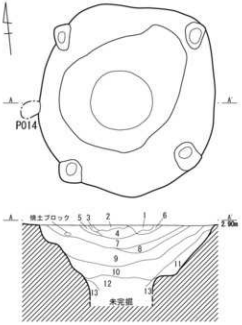
位置：A・B－１・２グリッド。重複関係：第 14 号ピットと重複するが、先後関係は不明。平面形・規模：開口部形状は東西径 282 ㎝、南北径 302 ㎝の円形を呈する。開口部からの深さは 130 ㎝までは確認できたが、それ以下は湧水のため確認できなかった。調査で確認した最下部の径は東西 100 ㎝、南北 94 ㎝である。井戸の断面形状は開口部から 94 ㎝までは漏斗状に掘り込まれ、それ以下は垂直に掘り込まれた素掘り井戸である。開口部に近い北側の壁は崩落し、やや強く抉れる。開口部で確認した四方の半円形の掘り込みは、上部構造物の柱跡と思われる。覆土：礫、材などが覆土下層から多く出土したが、11 層以上の堆積状況が自然堆積によるものと考えられることから、井戸廃絶時に 12 層以下まで人為的に埋められた後、長期間にわたり放置されたものと推測される。

遺物（第 12 図　第４表　図版６・７）

出土状況：覆土からは板碑片のほか、カワラケ、内耳鍋、径 50 ㎝大の円礫、木材（第 11 図７～11）などが出土した。内、木材については人為的な加工が認められるもの、表面が炭化したものが見られる。これらは、井戸廃絶時に他の遺物とともに投棄されたものと考えられる。

時期

出土遺物および遺構形状から中世期中葉から後葉と考えられる。

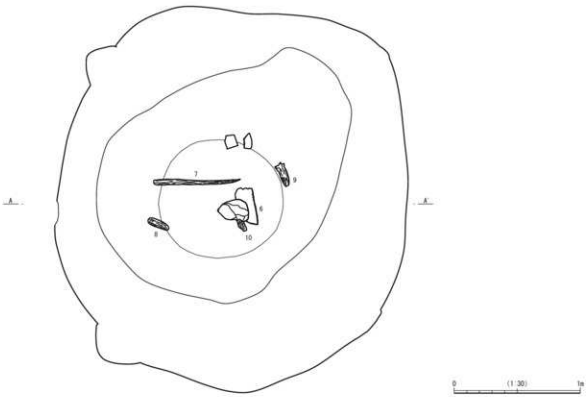


第１号井戸跡

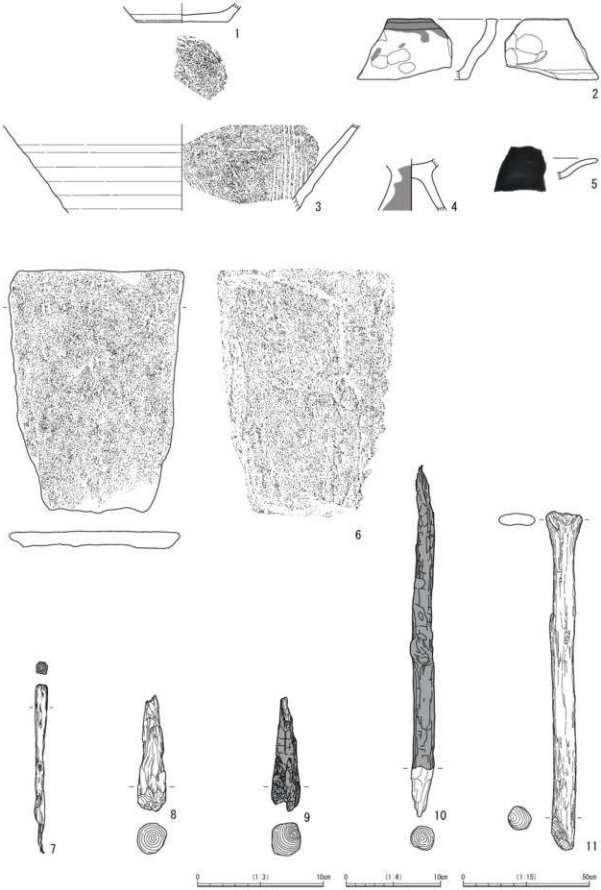
1	10YR2/2	黒褐色土	しまりあり、粘性なし。２と同質の黒褐色土に鉄分沈着の暗赤褐色土と黄褐色土ブロックφ10mm をやや多量（150 ㎜大も含まれる）。
2	10YR2/2	黒褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化粒φ2mm 微量、黄褐色土ブロックφ５～10mm やや多量。
3	10YR2/2	黒褐色土	しまりあり、粘性なし。２と同質の黒褐色土に鉄分沈着の暗赤褐色土と黄褐色土ブロックφ10mm をやや多量（150 ㎜大も含まれる）。
4	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり、粘性僅かにあり。炭化物φ２～3mm やや多量。黄褐色土と鉄分沈着が斑に混入。
5	10YR2/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。色粒φ1mm 微量、黄褐色土粒φ１㎜少量。
6	10YR2/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。赤色粒φ１㎜微量。
7	10YR3/2	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化粒φ２～5mm 少量、赤色粒φ２～３㎜微量、黄褐色土粒φ２～5mm 少量。
8	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化粒、赤色粒、黄褐色土粒が７よりもやや増える。炭化粒はやや層状を成す。
9	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。８よりも粘性がやや強く、色調もやや明るい。黄褐色土粒φ２～15 ㎜がやや目立つ。
10	7.5YR4/2	灰褐色土	しまりあり、粘性あり。炭化粒φ２～5mm、赤色粒φ２～５㎜、黄褐色土粒φ２～5mm やや多量。鉄分沈着が見られる。
11	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。含有物は10と同じだが、黒味強く粘性やや弱い。
12	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性あり。13の上が斑に混入する（崩落した井戸壁面）。
13	10YR3/1	黒褐色土	しまりあり、粘性あり。炭化粒φ２～10mm 少量、焼土粒φ２～10 ㎜を微量に含む粘土質土。

0　(1:60)　2m

第 10 図　第１号井戸跡実測図（SE01）



第 11 図　第１号井戸跡遺物出土状況



第12図　第1号井戸跡出土遺物実測図（SE01）

第４表　第１号井戸跡出土遺物観察表

掲図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（推定口径）（cm）	底径（推定底径）（cm）	器高（残存高）（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
12-1 6-SE01-1	SE01	カワラケ	－	底部	15	－	(6.8)	(1.5)	ロクロ成形。摩滅が激しく調整は不鮮明。左回転糸切り離し。	赤色粒	良好	10YR8/4 浅黄橙色	黒色滲出物が見られる。中世中葉。
12-2 6-SE01-2	SE01	土師質土器	内耳鍋 焙烙	口縁部～体部	5	－	－	－	内耳部貼付け。内外面ナデ。外面下部に指頭痕。	赤色粒・白色粒・長石	不良	5YR7/6 橙色	黒色滲出物が見られる。外面黒色物付着。中世中葉～後葉。
12-3 6-SE01-3	SE01	陶器	擂鉢	胴部	5	－	－	(6.7)	胴部内面に 12 本 1 単位の擂目。内外面に鉄釉を施す。	赤色粒・白色粒・石英	良好	10YR8/4 浅黄橙色	中世。
12-4 6-SE01-4	SE01	土師器	台付甕	器台部	5	－	－	(4.1)	摩滅のため調整は不明。	赤色粒・白色粒	良好	7.5YR4/1 褐灰色	器台部に煤付着。黒色滲出物が見られる。古墳時代前期。
12-5 6-SE01-5	SE01	磁器	皿	口縁部～体部	細片	－	－	－	ロクロ成形。青磁皿。口縁部は波状を呈す。内外面に貫入。	白色粒	良好	10YR7/1 灰白色	輸載品？時期不明。

掲図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	推定年代	石材	備考
12-6 6-SE01-6	SE01	石製品	板碑	身部～基礎部	1／3以下	25.6	18.3	1.7	供養者名 □□□禅門□、紀年銘 □□五年　□□十五日□、干支「癸丑」	建長五年（1253） 永享五年（1443）	緑泥片岩	5 年の元号を持つ発目の年は上記の 2 つのみ。共伴関係から 1443 年が有力か。

掲図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	備考
12-7 7-SE01-7	SE01	木製品	材	－	－	67.0	5.3	4.7	断面方形。表面炭化。	
12-8 7-SE01-8	SE01	木製品	材	－	－	46.0	12.0	12.0	断面円形。炭化した表面の一部を残す。	
12-9 7-SE01-9	SE01	木製品	材	－	－	45.0	11.5	13.0	断面不定方形。表面の炭化が著しい。	
12-10 7-SE01-10	SE01	木製品	材	－	－	138.5	89.0	89.0	断面円形。顕著な加工痕は認められない。焼けた自然木か。	
12-11 7-SE01-11	SE01	木製品	材	－	－	35.6	3.8	2.4	断面円形。棒状木製品。表面の一部に炙り跡を残す。	

第２号井戸跡 － SE02

遺構（第 13 図　図版３－３）

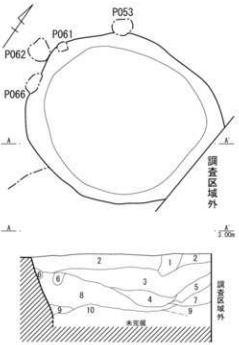
位置：A・B－３・４グリッド。重複関係：第１号性格不明遺構と重複する。断面からは確認できなかったが、覆土の平面分布から第１号性格不明遺構に先行すると考えられる。また、第 53・61・66 号ピットと重複するが、先後関係は不明。平面形・規模：開口部東側の一部は調査区域外に続く。確認された範囲での東西径は 184 ㎝である。平面形はややつぶれた円形を呈するが、西側において壁面の崩落が認められる。開口部からの深さは 110 ㎝までは確認できたが、それ以下は湧水が激しく確認できなかった。調査で確認した最下部の径は東西 142 ㎝、南北 226 ㎝である。井戸の断面形状は開口部から 88 ㎝までは漏斗状を呈し急傾斜に掘り込まれ、それ以下は垂直に掘り込まれた素掘り井戸である。覆土：堆積状況から自然堆積によるものと考えられる。

遺物（第 14 図　第５表　図版７）

出土状況：覆土中からは板状の木材（３）のほか青磁片（１）などが出土した。

時期

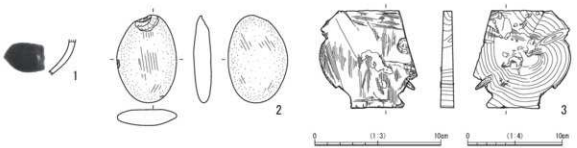
遺構形状及び中世期中葉から末葉に属する第１号性格不明遺構に先行すると考えられることから、中世期中葉から末葉以前と推測される。



第２号井戸跡

1	10YR4/2	灰黄褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化粒φ１mm少量、赤色粒φ１～２mm、黄褐色土粒φ２～3mm中量、黄褐色土ブロックφ５～20mm少量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化粒φ１mm少量、赤色粒φ１～２mm、黄褐色土粒φ２～3mm中量、黄褐色土ブロックφ５～20mm少量。
3	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性僅かにあり。炭化粒φ１mm少量、赤色粒φ１～２mm、黄褐色土粒φ２～3mm中量、黄褐色土ブロックφ５～50mm少量（黄褐色土ブロックはφ30～50mmが目立つ）。
4	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり、粘性あり。黄褐色土粒φ1mm微量。粘性が特に強く鉄分の沈着が僅かに見られる。
5	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性あり。２と同質の上に黄褐色土が斑に混入し、粘性が強い。
6	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。２と同質ではあるが鉄分沈着が見られる（木根か？）。
7	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり、粘性あり。鉄分沈着が斑に混入し、カリカリした感触。
8	10YR4/6	褐色土	しまりあり、粘性あり。鉄分沈着の暗赤褐色が薄い層状に見られる（井戸壁面崩落土）。
9	10YR2/2	黒褐色土	しまりややあり、粘性あり。黄褐色土粒φ1mm微量。鉄分が微量に混入。８より黒味がやや強い。
10	5GR4/1	暗オリーブ灰色土	しまりややあり、粘性あり。粘土状の層。一部黒色土が斑に混入。

第 13 図　第２号井戸跡実測図（SE02）



第 14 図　第２号井戸跡出土遺物実測図（SE02）

第５表　第２号井戸跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（推定口径）（cm）	底径（推定底径）（cm）	器高（残存高）（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
14-1 7-SE02-1	SE02	磁器	椀？	体部	破片	－	－	－	青磁片。内外面に貫入が見られる。	白色粒	良好	10YR7/1 灰白色	輸入品？

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	推定年代	石材	備考
14-2 7-SE02-2	SE02	石製品	敲石 磨石	－	－	9.2	6.3	1.7	表面平滑。縁部に敲打痕を残す。	－	ホルンフェルス	

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	備考
14-3 7-SE02-3	SE02	木製品	材	－	－	10.2	10.0	1.4	方形の板片。幅は厚みを増す。角柱端材。	

第３号井戸跡－ SE03

遺構（第 15 図　図版３―４）

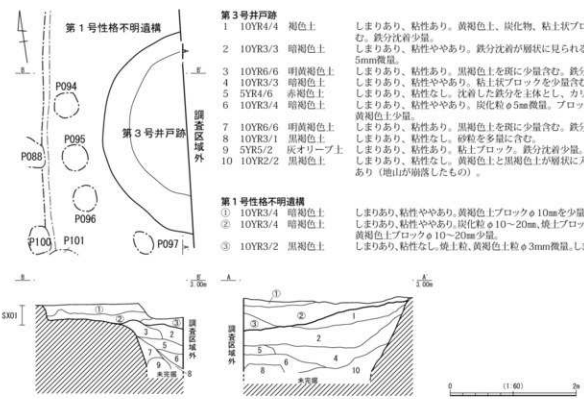
位置：Ｂ－４・５グリッド。重複関係：第１号性格不明遺構に切られ重複する。規模・形状：開口部は南北径 318 ㎝を測る。東西径は東側の過半を調査区域外に有するため全容は不明だが、円形プランであったと推測される。開口部からの深さは 138 ㎝までは確認できたが、それ以下は湧水のため確認できなかった。調査で確認した最下部の径は南北 226 ㎝である。断面形状は西側は概ね垂直に掘り込まれるが、南側ではやや緩やかな傾斜を持つ。南北断面 10 層において壁面が崩落した痕跡が認められることから、第３号井戸跡の本来の形状は円柱形に掘り込まれた素掘り井戸であると思われる。覆土：堆積状況から自然堆積によるものと考えられる。

遺物

本遺構から遺物は出土していない。

時期

遺構形状、中世期中葉から末葉に属する第１号性格不明遺構に先行することから、中世期中葉から末葉以前と考えられる。



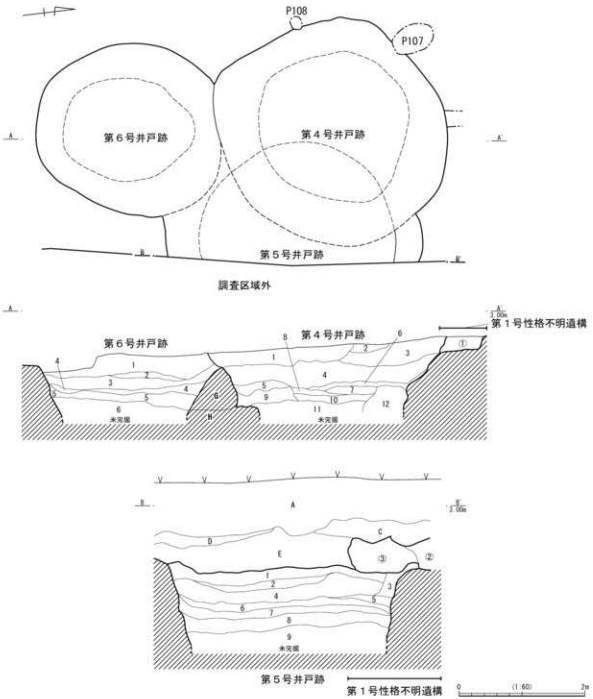
第 15 図　第３号井戸跡実測図（SE03）

第４号井戸跡－ SE04

遺構（第 16・17 図　図版４―１～３）

位置：Ａ・Ｂ－５・６グリッド。重複関係：第５号井戸跡と第６号井戸跡、第１号性格不明遺構を切る。また、第 107・108 号ピットを切る。平面形・規模：開口部は南北径 362 ㎝、東西径は第１

号性格不明遺構と重複するため正確な値は不明だが、円形プランであったとの推定から 360 ㎝程度であったと推測される。開口部からの深さは 128 ㎝までは確認できたが、それ以下は湧水のため確認できなかった。調査で確認した最下部の径は東西 238 ㎝、南北 238 ㎝である。断面形状は開口部から 80 ㎝までは漏斗状に掘り込まれ、それ以下は垂直に掘り込まれる。井戸側構築材などは確認されなかったため素掘り井戸であると考えられる。覆土：堆積状況から自然堆積によるものと考えられる。



第 16 図　第４～６号井戸跡実測図（SE04,SE05,SE06）（１）

第４号井戸跡

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり,粘性ややあり.１に比べしまりがやや弱い.鉄分沈着が薄く層状を成す。
2	10YR4/3	にぶい黄褐色土	しまりあり,粘性ややあり.鉄分沈着を少量含む(２次堆積黄褐色土)。
3	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり,粘性ややあり.炭化粒,焼土粒φ３～５㎜,黄褐色土粒φ１～3mm やや多量。
4	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性あり.炭化粒φ３～５㎜少量.一部に２次堆積黄褐色土が層状に入る。
5	10YR3/4	暗褐色土	しまりややあり,粘性あり.７に比べ黄褐色土の混入がやや多い.鉄分沈着微量。
6	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性あり.炭化物φ３～5mm 少量.粘土状のブロックを一部に含む。
7	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり,粘性ややあり.炭化粒φ５～10 ㎜少量。
8	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性なし.鉄分沈着多量.砂粒を多く含む。
9	10YR4/4	褐色土	しまりあり,粘性あり.多量の黄褐色土ブロックを含み,鉄分沈着が少量見られる。
10	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり,粘性あり.黄褐色土粒φ１～2mm 微量,鉄分がブロック状に固まる。
11	10YR3/1	オリーブ黒色土	しまりあり,粘性あり.炭化粒,黄褐色土粒φ１～2mm 少量.繊維状の物質を多量に含み,粘性特に強い。
12	10YR4/3	にぶい黄褐色土	しまりあり,粘性あり.暗褐色土を斑に含む(井戸壁崩落層)。
G	2.5YR5/6	黄褐色土	しまりあり,粘性有り,地山。
H	5Y6/2	灰オリーブ土	しまりあり,粘性有り,地山.グライ化により灰色を帯びる。

第５号井戸跡

1	7.5YR4/4	褐色土	しまりあり,粘性ややあり.炭化物φ２～３㎜,焼土粒φ２～３㎜少量.褐色土中に黄褐色土が多量に混入する(２次堆積ローム)。
2	10YR2/2	黒褐色土	しまりあり,粘性あり.炭化物φ5mm,焼土粒φ1 ㎜少量。
3	10YR5/8	黄褐色土	しまりあり,粘性あり.暗褐色土を斑に含む.鉄分沈着少量(井戸壁面崩落層)。
4	5YR3/4	暗赤褐色土	しまりあり,粘性あり.炭化物,黄褐色土粒φ１～２㎜少量.鉄分沈着の赤褐色がやや多く見られる。
5	5YR5/6	暗赤褐色土	しまりあり,粘性ややあり.炭化物φ1mm 微量,鉄分を多量に含みカリカリした感触。
6	10YR2/2	黒褐色土	しまりあり,粘性ややあり.鉄分沈着が層状に見られる.焼土粒φ５㎜微量。
7	10YR2/2	黒褐色土	しまりなし,粘性あり.炭化物φ２～3mm,黄褐色土粒φ1 ㎜微量,粘性高くしまりを欠く。
8	7.5YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性あり.炭化物φ２～3mm,黄褐色土粒φ２㎜少量,鉄分の沈着が僅かに見られる。
9	5Y3/1	オリーブ黒色土	しまりあり,粘性あり.炭化物,黄褐色土粒φ1 ㎜少量.繊維状の物質を多量に含み,粘性特に強い。
A	表土撹乱層		
C	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性なし.黄褐色土粒φ5mm 少量,赤色粒粒φ1 ㎜微量。
D	7.5YR5/6	明褐色土	しまりあり,粘性ややあり.粘土.黄褐色土,焼土がマーブル状に混入する。
E	7.5YR4/4	暗褐色土	しまりあり,粘性なし.炭化物φ２～3mm,焼土粒φ1 ㎜,黄褐色土粒φ1mm 少量。

第６号井戸跡

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり,粘性ややあり.炭化粒,焼土粒φ２㎜,黄褐色土粒φ1mm 少量。
2	10YR4/3	にぶい黄褐色土	しまりあり,粘性あり.鉄分沈着を少量(２次堆積ローム)。
3	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性あり.炭化物φ３～5mm 少量.粘土状のブロックを一部に含む。
4	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性なし.鉄分沈着多量.砂粒を多く含む。
5	10YR3/4	暗褐色土	しまりややあり,粘性あり.黄褐色土ブロックφ20 ～ 30 ㎜少量.鉄分沈着が僅かに見られる。
6	10YR3/1	オリーブ黒色土	しまりあり,粘性あり.炭化粒,黄褐色土粒φ１～2mm 少量.繊維状の物質を多量に含み,粘性特に強い。

第１号性格不明遺構

①	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性ややあり.黄褐色土ブロックφ10 ㎜を少量斑に含む。
②	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり,粘性ややあり.炭化粒φ10 ～ 20 ㎜,焼土ブロックφ10 ～ 20 ㎜,黄褐色土ブロックφ10 ～ 20 ㎜少量。
③	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり,粘性なし.焼土粒,黄褐色土粒φ3mm 微量.しまりが特に強い。

第 17 図　第４～６号井戸跡実測図（SE04,SE05,SE06）（２）

遺物（第 18 図　第６表　図版７）

出土状況：覆土からは黒漆塗り椀の底部ほか、土製羽釜、瀬戸・美濃焼の卸皿などが出土している。また木材 10 点が出土している（５～８）。

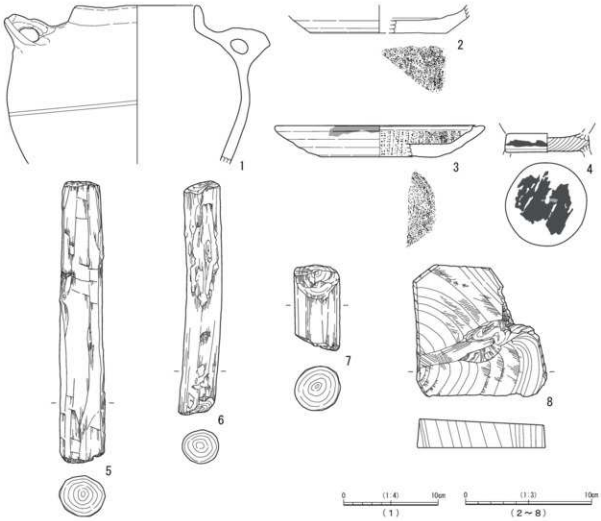
時期

出土遺物から中世期末葉から近世初頭。

第５号井戸跡－ SE05

遺構（第 16・17 図　図版４－１～３）

位置：Ｂ－５・６グリッド。重複関係：第４号井戸跡と６号井戸跡に切られる。平面形・規模：開口部は南北径 400 ㎝の円形プランであったと推測されるが、正確な形状は不明である。また東側の過半を調査区外に有する。開口部からの深さは 116 ㎝までは確認できたが、それ以下は湧水のため確認できなかった。調査で確認した最下部の南北径は 312 ㎝である。断面形状は開口部から 132 ㎝までは漏斗状に掘り込まれ、それ以下は垂直に掘り込まれた素掘り井戸である。覆土：堆積状況から自然推積によるものと考えられる。

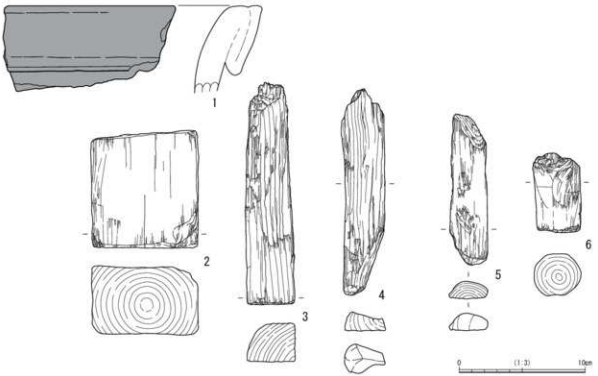


第18図　第4号井戸跡出土遺物実測図（SE04）

第6表　第4号井戸跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（推定口径）（cm）	底径（推定底径）（cm）	器高（残存高）（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
18-1 7-SE04-1	SE04	土製品	土釜	口縁部～胴部	70	13.0	－	〈16.7〉	胴部球状。環は大きめで、下部に火袋を付す。胴部中央に沈線が一条廻走する。		良好	7.5YR6/1 褐灰色	在地 中世末～近世初頭
18-2 7-SE04-2	SE04	陶器	皿	底部	5	－	〈10.6〉	〈2.2〉	ロクロ成形。胴部内外面回転ナデ。回転糸切り。	赤色粒・白色粒	良好	7.5YR8/1 灰白色	産地不明・時期不明
18-3 7-SE04-3	SE04	陶器	卸皿	口縁部～底部	30	(16.4)	(9.0)	2.5	ロクロ成形。卸目は先端の尖った工具により数条の沈線を切った後、垂直方向に施す。口縁部に灰釉を施釉。	白色粒・石英	良好	10YR8/3 浅黄橙色	瀬戸・美濃焼 中世末～17世紀前葉
18-4 7-SE04-4	SE04	木製品	椀	底部	5	－	－	－	内外面黑漆塗り。底部外面に朱漆で「一」の文字。高台部は欠損。	－	－	－	時期不明

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	備考
18-5 7-SE04-5	SE04	木製品	材	－	－	22.4	3.6	3.4	断面円形。表面全体に丁寧な面取りを施す。	
18-6 7-SE04-6	SE04	木製品	材	－	－	18.4	2.9	2.8	断面円形。断裁な加工痕は認められず、表面に炭化した表皮を残す。焼けた自然木か。	
18-7 7-SE04-7	SE04	木製品	材	－	－	6.9	3.6	3.4	断面円形。表面に面取り痕。	
18-8 7-SE04-8	SE04	木製品	材	－	－	10.4	10.2	2.3	方形の板片。各角部は面取りされる。	



第19図　第5号井戸跡出土遺物実測図（SE05）

第7表　第5号井戸跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（推定口径）（cm）	底径（推定底径）（cm）	器高（残存高）（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
19-1 8-SE05-1	SE05	陶器	甕	口縁部	5	－	－	－	口縁部を折り返し段を作り出す。口縁部はロクロ成形時に削りだし、溝を作る。内外面に釉を施し、折り返し口縁周辺は特に灰釉を施し、緑色を呈す。	白色粒・石英	良好	7.5YR7/1 明褐灰色	常滑焼 15 世紀後半～ 16 世紀前半

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	備考
19-2 8-SE05-2	SE05	木製品	材	－	－	9.3	8.4	5.4	断面長方形。表面および上下面平坦。角柱材。	
19-3 8-SE05-3	SE05	木製品	材	－	－	17.6	3.8	3.0	断面扇形。切断面平坦。角柱材か。	
19-4 8-SE05-4	SE05	木製品	材	－	－	16.4	3.2	1.5	断面不定方形。下部を調整される。	
19-5 8-SE05-5	SE05	木製品	材	－	－	12.0	3.2	1.4	断面円形。上下に切断面を有す。	
19-6 8-SE05-6	SE05	木製品	材	－	－	6.3	3.8	3.2	断面円形。表面に擦痕。	

遺物（第19図　第7表　図版8）

出土状況：覆土からは常滑焼の甕などが出土した。また、木材の出土（2～6）も多く見られた。

時期

出土遺物および遺構の先後関係から中世期中葉から末葉に属し、第4号井戸跡に先行する時期の所産である。

第６号井戸跡－ SE06

遺構（第 15・16 図　図版４－１～３）

位置：A・B－６グリッド。重複関係：第４号井戸跡に切られ、第５号井戸跡を切る。平面形・規模：開口部は東西径 278 ㎝、南北径は推定で 284 ㎝の円形を呈する。開口部からの深さは 104 ㎝までは確認できたが、それ以下は湧水のため確認できなかった。調査で確認した最下部の径は東西 164 ㎝、南北 188 ㎝である。断面形状は開口部から 68 ㎝まではやや傾斜を持って掘り込まれ、それ以下は垂直に続くと考えられる。覆土：堆積状況から自然推積によるものと考えられる。

遺物

出土状況：覆土からは陶器などが出土しているが、いずれも小片であり図示できなかった。

時期

第４号井戸跡に先行し、第５号井戸跡に後続することから、中世期中葉から近世初頭の所産と考えられる。

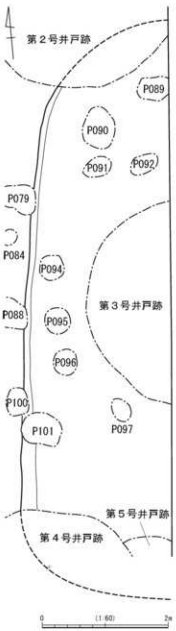
第３節　性格不明遺構

第１号性格不明遺構－ SX01

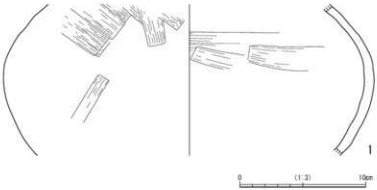
遺構（第 20 図）

位置：A・B－４・５グリッド。重複関係：第３号井戸跡と第５号井戸跡を切り、第４号井戸跡に切られる。また、第 79・88・89・90・91・92・94・95・96・97・100・101 号ピットと重複する。覆土の平面分布から、これらのピットは第１号性格不明遺構に先行すると推測される。平面形・規模：確認した範囲における南北長は推定 13.76 m、東西長 3.12 m の隅丸方形のプランである。主軸方位：過半を調査区域外に有するため詳細は不明だが、西側立ち上がりの南北ラインからN－７°－Eであると推定できる。覆土：しまりの強い暗褐色土を主体とする。覆土中からは焼土ブロックが確認されている。遺構との関連性は不明であるが、底面に接しない堆積状況から本遺構に伴うものではないと考えられる。その他：本遺構は底面まで 40 ㎝ほどの掘り込みを持ち、規模・形状から竪穴住居の可能性も検討したが、他の遺構との重複関係や柱穴や炉跡を確認することができなかったことから性格不明遺構として報告する。

遺物（第 21 図　第８表　図版８）



第20図　第１号性格不明遺構実測図(SX01)



第 21 図　第 1 号性格不明遺構出土遺物実測図（SX01）

第 8 表　第 1 号性格不明遺構出土遺物観察表

掲図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	口径（推定口径）（cm）	底径（推定底径）（cm）	器高（残存高）（cm）	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
21-1 8-SX01-1	SX01	土師器	甕	胴部	10	－	－	（12.2）	胴部外面縦位ナ～下方向ヘラナデ。 胴部内面縦位ナ～上方向ヘラナデ。	シャモット・赤色粒・雲母	良好	7.5YR8/4 浅黄橙	黒色液状物が見られる。胎土中に砂粒を多く含む。古墳時代前期。

出土状況：古墳時代前期の土師器甕が出土したが、遺構が中世期の第 3 号井戸跡を切ることから、流れ込みによるものと思われる。

時期

出土遺物は少量かつ微細なものが多数なため、明確な時期の特定には至らなかったが、井戸跡との重複関係などから中世期中葉から末葉に属すると考えられる。

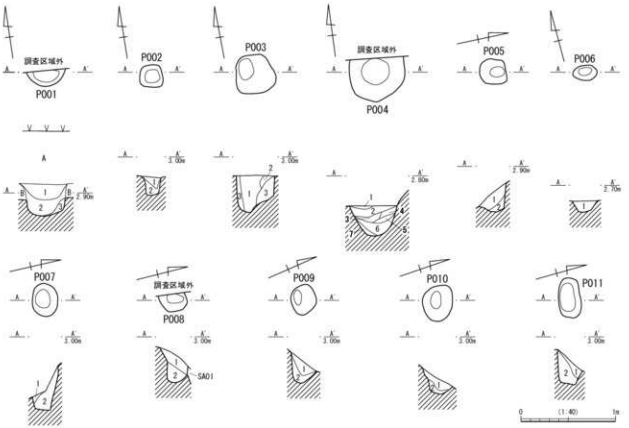
第 4 節　ピット・土坑

遺構（第 22 ～ 28 図　第 9 表　図版 5 ― 3 ・ 4 ・ 5）

本調査では計 107 基のピットと 1 基の土坑を検出したが、堆積状況から明確な柱の痕跡等は確認できなかった。以下に一覧表を掲載し、説明を加える。また、第 24・32・34 号ピットと、第 87・98・105・108 号ピットが同一軸線上に並ぶため柵列を構成する可能性があるが、各ピットの軸方向、平面形状、深さ等に明確な統一性が認められないことから、ここでは単独の遺構として報告する。

遺物（第 29 図　第 10 表　図版 8）

いくつかのピットからは遺物の出土が見られたが、多くは小片であった。比較的図化に耐えるものとして 4 点を掲載した。中でも、第 27 号ピットから出土した『元祐通寶』が特筆できる。



第１号ピット

1	7.5YR5/2	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。赤色粒、炭化粒φ0.5mm微量。
2	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土粒φ3～5mm少量、焼土粒φ2mm微量。
3	7.5YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性やややあり、黄褐色土が現に含まれる。
A	表土撹乱層		
B	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり、粘性なし。赤色粒φ1～2mm微量、黄褐色土粒φ3～4mm多量。

第２号ピット

1	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性やややあり、黄褐色土粒φ3～5mm少量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性やややあり、黄褐色土粒を含まない。

第３号ピット

1	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化物、赤色粒φ2mm、黄褐色土粒φ2～3mm微量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。1より黄褐色土粒の比率がやや多い。
3	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性やややあり、黄褐色土が１の土に現に混入する。

第４号ピット

1	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり、粘性やややあり、黄褐色土ブロックφ20～30mm少量。
2	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり、粘性やややあり、黄褐色土粒φ1mm少量。
3	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり、粘性あり、黄褐色土粒φ2mm微量。
4	10YR3/1	黒褐色土	しまりあり、粘性あり、黄褐色土粒φ1～2mm微量。2よりもやや黒味、粘性が強い。
5	10YR3/2	黒褐色土	しまりあり、粘性あり、黄褐色土ブロックφ20～30mm少量。1よりしまり、粘性がやや強い。
6	10YR3/1	黒褐色土	しまりあり、粘性あり、黄褐色土粒φ2～3mm少量。
7	10YR3/4	褐色土	やややあり、粘性あり、黄褐色土が現に混入。粘性が特に強い。

第５号ピット

1	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ3～5mm少量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、暗褐色土主体、黄褐色土粒を含まない。

第６号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化物φ3mm微量、黄褐色土粒φ1mm微量。

第７号ピット

1	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ1～2mm、炭化物φ2mm、赤色粒φ1mm微量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ2～3mm微量。1よりも僅かに色味が明い。

第８号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性僅かにあり、黄褐色土ブロックを現に含む。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりややあり、粘性あり、暗褐色土主体。
3	第１号堀魔土		

第９号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性あり、黄褐色土粒φ5mm微量、暗褐色土中に黒褐色土を現に含む。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性あり、黄褐色土をブロック状に含み、1よりも粘性が高い。

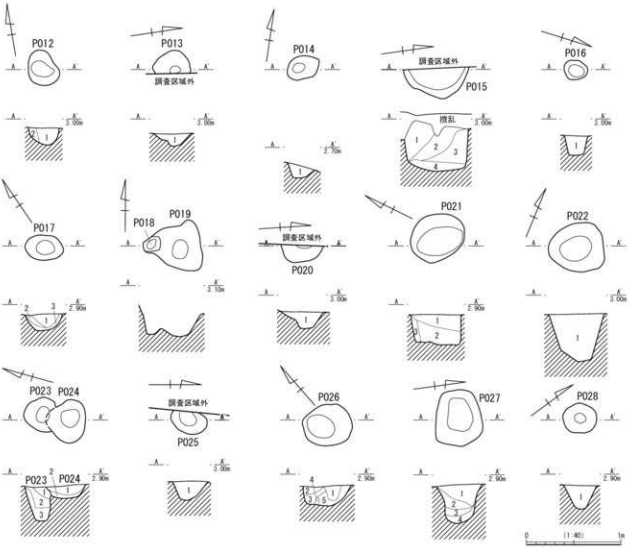
第10号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化物φ10mm、赤色粒φ5mm微量、黄褐色土を少量現に含む。鉄分沈着が見られる。
2	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり、赤色粒φ3mmやや微量。微量の黄褐色土を現に含む。

第11号ピット

1	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土中に黒褐色土を現に含む。鉄分沈着も見られる。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性あり。1と同質ではあるが、黄褐色土の比率が高く粘性も強い。

第22図　ピット実測図（P001～011）（1）



第12号ピット

1	10YR3/2	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化物φ1mm微量、黄褐色土粒φ2mm微量、赤色粒φ2mm微量。
2	10YR3/2	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。1の内包物に加え、黄褐色土が斑に含まれる。

第13号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性わずかにあり。多量の黄褐色土をブロック状に含む。

第14号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化物φ1～2mm微量、黄褐色土が斑に混入(土中小)。

第15号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土が斑に中量混入。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土が斑に多量混入。
3	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土が斑に少量混入。
4	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性あり。黄褐色土が斑に多量混入。他に比べ粘性が高い。

第16号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、炭化物φ2～4mmをやや多く含む。赤色粒φ2～3mmm、黄褐色土粒φ1mm微量(※木根か?)。

第17号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土粒φ2～3mm少量、赤色粒φ1mm微量、炭化粒φ1mm微量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土粒φ2～3mm少量、赤色粒φ1mm微量、炭化粒φ1mm微量。
3	10YR4/4	褐色土	しまりあり、粘性ややあり。地山に1、2の暗褐色土が斑に混ざる。

第20号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、焼土粒φ1～2mm少量、黄褐色土ブロックφ10mm少量、鉄分沈着φ10mmが少量みられる。

第21号ピット

1	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土粒φ3mm、赤色粒φ3mm、炭化粒φ3mm少量。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土粒φ5mm、赤色粒φ3mm、炭化粒φ3mm少量。
3	10YR5/4	にぶい黄褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土を主体とし1の土を少量斑に含む。

第22号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。焼土粒φ2mm微量。黄褐色土粒φ1～2mm少量。

第23号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土粒φ2～3mm少量、炭化物φ2～3mm微量。黄褐色土が斑に混入する。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり　黄褐色土粒φ1mm微量、炭化粒φ1mm微量。
3	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性あり。黄褐色土φ10～20mmが塊で混入する。

第24号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土粒φ2～3mm少量、炭化粒φ1mm微量。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土が斑に混入。

第25号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックφ10mmやや多量、焼土粒(φ1～2mm)少量。

第26号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性わずかにあり。黄褐色土粒φ1mm微量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土が斑に混入。
3	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。黄褐色土粒φ1mm、赤色粒φ2mm微量。
4	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土粒φ1mm微量。
5	10YR4/4	褐色土	しまりあり、粘性ややあり。マーブル状に黄褐色土と黒色土、焼土が混ざる。

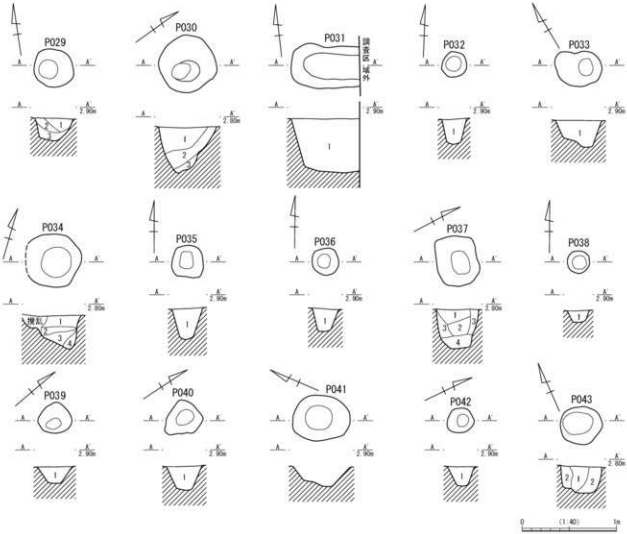
第27号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックφ20～40mm多量、焼土ブロックφ0.5mm少量。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックφ10～20mmやや多量、焼土粒粒φ1～2mmm少量。
3	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックφ10～20mm多量。
4	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックφ10～20mmやや多量、焼土粒φ1～2mm少量。

第28号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性あり。炭化物φ1～2mm少量、黄褐色土粒φ1～2mmやや多量、黄褐色土ブロックφ10～20mmやや多量。

第23図　ピット実測図（P012～028）（2）



第29号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、鉄分沈着、黄褐色土ブロックφ10mm少量。
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土ブロックφ10mmやや多量。
3　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土ブロックφ10mm少量。

第30号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、炭化物φ10mm、焼土粒φ1～2mm少量、黄褐色土ブロックφ10～20mmやや多量。
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、炭化物φ10mm少量、黄褐色土ブロックφ10mm少量。
3　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土ブロックφ10～30mmやや多量。

第31号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性なし、赤色粒φ3mm微量、炭化物φ2mm微量、黄褐色土粒φ1mm微量。わずかに黄褐色土が斑に混入。

第32号ピット

1　10YR2/3　黒褐色土　しまりあり、粘性なし。赤色粒φ3mm微量、黄褐色土粒φ2mm微量。

第33号ピット

1　10YR2/3　黒褐色土　しまりあり、粘性なし、炭化物φ2～3mm少量、赤色粒φ1mm少量。

第34号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ1～5mm、焼土粒φ5mm少量。
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ5mm少量、少量の黒褐色土φ30～60mmがブロック状に混入する。
3　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、焼土粒φ5mm微量、微量の黒褐色土φ30～60mmがブロック状に混入する。
4　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、やや多量の黒褐色土φ30～60がブロック状に混入する。

第35号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、黄褐色土粒φ1～2mmやや多量、黄褐色土ブロックφ10mmやや多量。

第36号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、赤色粒φ2mm微量、黄褐色土が斑に混入する。

第37号ピット

1　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、黄褐色土が斑に混入する。
2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、焼土粒φ3～5mm微量。
3　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、1と同質だが粘性にやや欠ける。
4　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、2と同じ色調だが焼土粒を含まず、黄褐色土粒φ2mmを微量。

第38号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性なし、炭化物φ1～2mm微量、黄褐色土が斑に混入。

第39号ピット

1　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ2～3mm少量、鉄分沈着の赤褐が多量に見られる。

第40号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土ブロックφ10～30mmやや多量、焼土粒φ1～2mm少量。

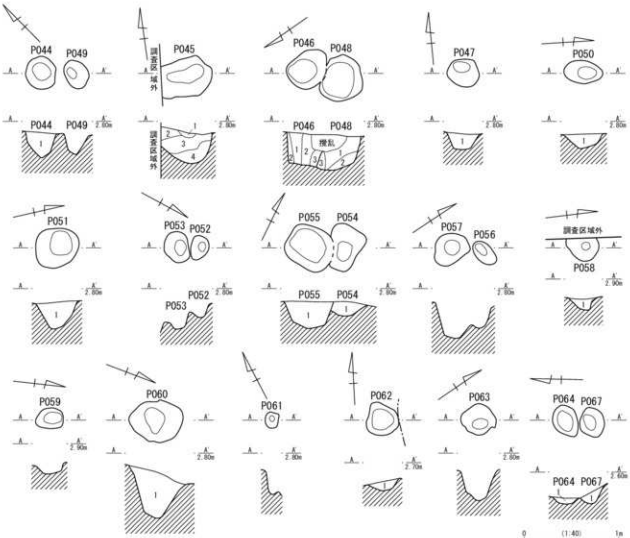
第42号ピット

1　10Y32/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ1～5mmやや多量。

第43号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、炭化物、焼土粒、黄褐色土粒φ2mmやや多量。
2　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、黄褐色土粒φ1mm微量、黄褐色土が斑に混入。

第 24 図　ピット実測図（P029 ～ 043）（3）



第44号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、焼土粒φ1～2mm、黄褐色土ブロックφ10mm少量。

第45号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土が斑に混入する。黄褐色土の比率は高い。

2　10YR3/2　黒褐色土　しまりあり、粘性なし、炭化粒φ1～2mm、黄褐色土粒φ2～3mm少量。

3　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性なし、炭化粒φ2～4mm、黄褐色土粒φ1～2mm少量。

4　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、3と同色だが含有物は見られず、斑状の黄褐色土を僅かに含む。

第46号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性なし、黄褐色土粒φ2～3mm微量。

2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、黄褐色土ブロックφ10mm多量。

3　10YR4/4　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、焼土粒φ2～3mm微量、黄褐色土を主体とし、暗褐色土を斑に含む。

第48号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、多量の黄褐色土ブロックφ30～50mmが斑に含まれる。

2　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ3～5mm少量、焼土粒φ2mm微量。

3　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、僅かに黄褐色土が斑に含まれる。

第47号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、炭化物φ1～2mm、焼土粒2～3mm少量。

第50号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性あり、黄褐色土粒φ1～2mm、黄褐色土ブロックφ10mm、鉄分沈着φ5mm少量。

第51号ピット

1　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性なし、炭化物φ3mm、焼土粒φ2mm微量、黄褐色土ブロックφ30mm以上をやや多量。

第54号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、焼土粒φ2mm少量、黄褐色土、黒褐色土が斑点状φ50mmに混入。

第55号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、6と同質だが黄褐色土の比率が多い。

第58号ピット

1　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ2～3mm微量。

第60号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土ブロックφ10～40mm多量、一部100～150mmあり。

第62号ピット

1　10YR2/3　黒褐色土　しまりあり、粘性なし、黄褐色土粒φ2mm少量、黄褐色土ブロックφ10mm微量。

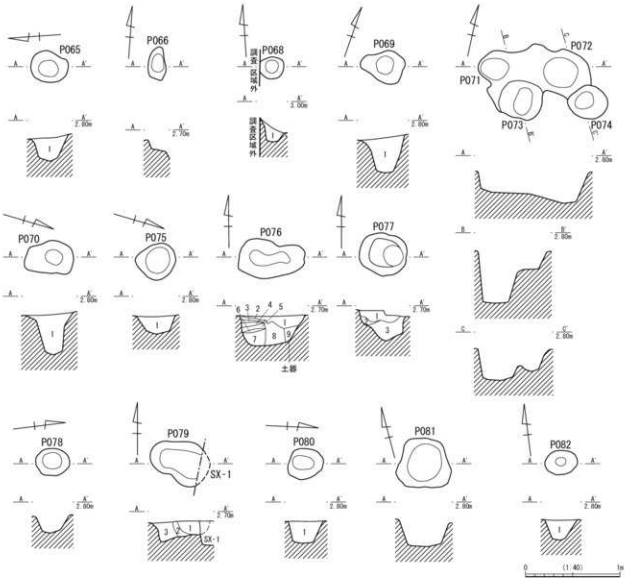
第64号ピット

1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ1mm少量。

第67号ピット

1　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり、粘性ややあり、炭化物、焼土粒φ2mm微量、黄褐色土粒φ2mm多量。

第 25 図　ピット実測図（P044 ～ 064・067）（4）



第65号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。少量の黄褐色土が現に混入。

第68号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性なし。硬化した黒褐色土と同様の土が入る。

第69号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックφ50mm少量。

第70号ピット

1	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックφ50mm少量。16よりややや明るい。

第75号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化物φ10mm少量。黄褐色土ブロックφ10mm少量。

第76号ピット

1	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化物φ2～3mm、黄褐色土粒φ3～5mm少量、焼土粒φ2mm微量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黄褐色土ブロックφ10mm少量。
3	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性あり。黄褐色土粒φ1～2mm、焼土粒φ1mm微量。
4	10YR6/6	明黄褐色土	しまりあり、粘性あり。黄褐色土を主体とし黒褐色土が少量混ざる。
5	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。黒褐色土中に黄褐色土が少量現に混ざる。
6	10YR6/6	明黄褐色土	しまりあり、粘性あり。4と同質だが黒褐色土の比率がやや高い。
7	10YR2/2	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。3と同じ含有物。色調がやや暗い。
8	10YR4/4	褐色土	しまりあり、粘性あり。黒褐色土がマーブル状に混入する。焼土粒φ1mmを微量に含む。
9	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化物φ5mm、焼土粒φ2～3mm微量。

第77号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性なし。炭化物φ5mm、焼土粒φ1mm微量、黄褐色土ブロックφ10mm少量。
2	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化物φ5mm、焼土粒φ1mm微量、黄褐色土ブロックφ5mmやや多量。
3	10YR3/4	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化物φ5mm、焼土粒φ3mm微量、黄褐色土を現に含む。

第79号ピット

1	10YR2/2	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化物φ2mm、焼土ブロックφ10mm微量。
2	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化物φ5mm、焼土粒φ3mm微量、黄褐色土ブロックφ5mm多量。
3	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり。炭化物φ5mm、焼土粒φ3mm微量、黄褐色土ブロックφ5mmやや多量。

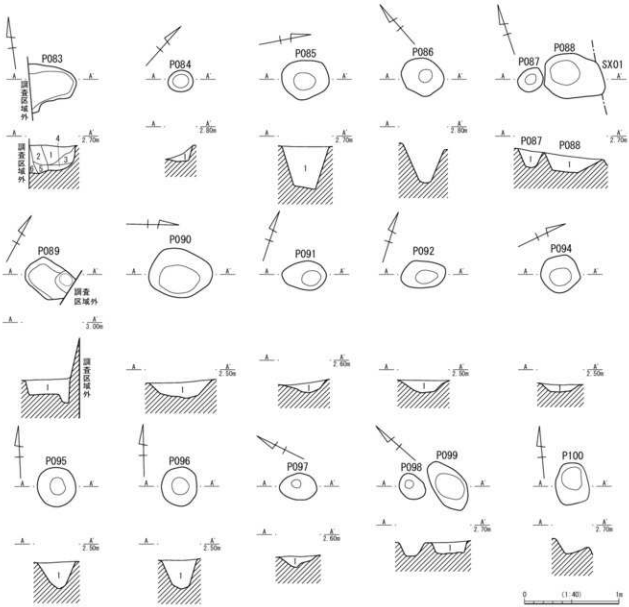
第80号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。焼土粒φ1～2mm少量、黄褐色土ブロックφ10～30mm少量。

第82号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり。焼土粒φ1～2mm少量。

第26図　ピット実測図（P065・066・068～082）（5）



第83号ピット

1	10YR5/6	黄褐色土	しまりあり、粘性ややあり、炭化物、焼土粒φ1～2mm微量。ブロック状に固まる黄褐色土に暗褐色土が現に混じる。黄褐色土がブロック状に固まる。
2	10YR5/6	黄褐色土	しまりあり、粘性ややあり、炭化物、焼土粒φ1～2mm微量。黄褐色土を主体とするが暗褐色土が現に混じる。
3	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、焼土粒φ2mm、黄褐色土ブロックφ10mm微量。
4	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、炭化物、焼土粒φ1mm微量。
5	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、暗褐色土を主体とし、僅かに黄褐色土を斑に含む。
6	10YR3/3	黄褐色土	しまりあり、粘性あり、暗褐色土を斑に含む。

第84号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり、赤色粒粒φ1～2mm少量、黄褐色土ブロックφ10mm少量。

第85号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり、焼土粒φ1～2mm少量、黄褐色土ブロックφ10～30mm少量。

第87号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、鉄分沈着φ5mm少量、黄褐色土ブロックφ10mm少量。

第88号ピット

1	10YR2/2	黒褐色土	しまりあり、粘性なし、炭化物φ2mm微量、焼土粒φ2mm微量、黄褐色土ブロックφ50mmやや多量。

第89号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性なし、硬化した黒褐色土と同様の土が入る。

第90号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土ブロックφ30～50mm少量、炭化物φ3mm少量、黄褐色土粒φ1～2mm少量、赤色粒φ2mm少量、鉄分沈着φ1～2mm微量。

第91号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土ブロックφ10mmやや多量。

第92号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土ブロックφ10～20少量、鉄分沈着φ5mm少量。

第94号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、鉄分沈着φ10mmやや多量、黄褐色土ブロックφ10～30mmやや多量。

第95号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり、鉄分沈着φ5mm少量、黄褐色土ブロックφ10～20mm少量。

第96号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、鉄分沈着φ5mm少量、黄褐色土ブロックφ10～20mm少量。

第97号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、黄褐色土粒φ1～2mmやや多量。

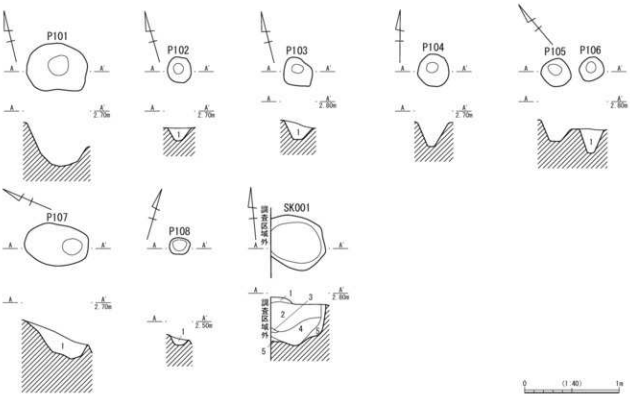
第99号ピット

1	10YR3/3	暗褐色土	しまりあり、粘性ややあり、鉄分沈着φ10mm少量、黄褐色土ブロックφ10～30mm少量。

第100号ピット

1	10YR2/3	黒褐色土	しまりあり、粘性ややあり、赤色粒φ3mm微量、黄褐色土が現に混入。

第27図　ピット実測図（P083～092・094～100）（6）



第102号ピット
1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり，粘性ややあり，炭化物，焼土粒，黄褐色土粒φ2～3mm少量。

第103号ピット
1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり，粘性ややあり，鉄分沈着φ5mm少量，黄褐色土粒φ5mm少量。

第106号ピット
1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり，粘性ややあり，黄褐色土粒φ1～2mm微量。

第107号ピット
1　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり，粘性ややあり，炭化物，焼土粒，黄褐色土粒φ1～2mm少量，鉄分沈着微量。

第108号ピット
1　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり，粘性ややあり，炭化物，焼土粒，黄褐色土粒φ1mm少量。

第1号土坑
1　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり，粘性なし。炭化粒φ2～3mm，焼土粒φ2～3mm少量（表土，黒褐色砂化面層）。
2　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり，粘性なし。炭化粒，焼土粒φ2～5mm少量，黄褐色土粒φ1～2mm微量，黄褐色土ブロックφ10～15mm少量。
3　10YR4/4　褐色土　しまりあり，粘性ややあり，暗褐色土を斑に含む。
4　10YR3/3　暗褐色土　しまりあり，粘性ややあり。2と同様の含有物だが色調はやや暗く，やや粘性を持つ。
5　10YR4/4　褐色土　しまりあり，粘性あり。4の暗褐色土を斑に含む（地山崩落部）。

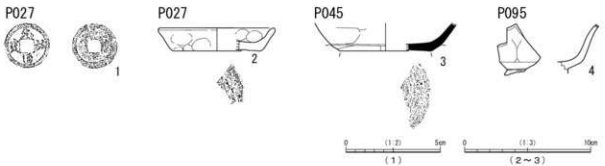
第 28 図　ピット実測図（P101 ～ 108）（7）・第 1 号土坑実測図（SK001）

第 9 表　ピット一覧表

遺構番号	主体覆土	覆土堆積状況	平面形態	規模長径(cm)	規模短径(cm)	断面形態	確認面からの深さ(cm)	出土遺物	備考	主軸方向
P001	暗褐色土	自然堆積	円形	42	16以上	筒形	42	土師器		N－89°－W
P002	暗褐色土	自然堆積	方形	29	25	台形	20			N－50°－W
P003	暗褐色土	人為堆積	方形	46	44	筒形	38		柱穴か	N－53°－W
P004	黒褐色土	自然堆積	円形	58	46	椀形	32		SA01 を切る	N－6°－E
P005	暗褐色土	単層	隅丸方形	31	29	筒形	32		SA01 に切られる	N－52°－E
P006	暗褐色土	単層	楕円形	24	15	椀形	13		SA01 に切られる	N－84°－W
P007	暗褐色土	自然堆積	楕円形	36	27	筒形	47		SA01 に切られる	N－88°－W
P008	暗褐色土	自然堆積	方形	29	19以上	筒形	39		SA01 に切られる	N－12°－E
P009	暗褐色土	自然堆積	方形	32	28	筒形	36	土師器	SA01 に切られる	N－56°－W
P010	暗褐色土	自然堆積	楕円形	40	32	台形	30		SA01 に切られる	N－47°－W
P011	暗褐色土	自然堆積	長楕円形	41	22	筒形	36		SA01 に切られる	N－75°－W
P012	暗褐色土	自然堆積？	不整楕円形	38	33	椀形	20			N－5°－W
P013	暗褐色土	単層	方形	40	23以上	椀形	15		SE01 と重複	N－13°－E
P014	暗褐色土	単層	楕円形	36	24	台形	18			N－54°－E
P015	暗褐色土	人為堆積	円形	70	32	筒形	44	土師器・カワラケ		N－5°－E
P016	暗褐色土	単層	楕円形	24	20	筒形	21			N－20°－W
P017	暗褐色土	自然堆積	楕円形	40	28	椀形	16			N－41°－W
P018	－	－	不整楕円形	20	16	筒形？	22			N－53°－W
P019	－	－	不整楕円形	58	51	椀形	25			N－43°－W
P020	暗褐色土	単層	方形？	44	17以上	台形	17			N－5°－W
P021	暗褐色土	自然堆積か	円形	58	48	筒形	34	カワラケ		N－49°－W
P022	暗褐色土	単層	不整円形	54	53	三角形	49			N－71°－E

遺構番号	主体覆土	覆土堆積状況	平面形態	規模長径(cm)	規模短径(cm)	断面形態	確認面からの深さ(cm)	出土遺物	備考	主軸方向
P023	暗褐色土	自然堆積	円形	34	34	筒形	39	カワラケ・土製品		N－86°－E
P024	暗褐色土	自然堆積	不整円形	43	42	台形	14		P032・034と柵列を構成する可能性がある。	N－56°－E
P025	暗褐色土	単層	楕円形	40	24以上	椀形	20			N－20°－W
P026	黒褐色土	単層	円形	49	48	台形	21			N－19°－W
P027	暗褐色土	自然堆積	不整方形	59	49	筒形	41	土師器・須恵器・鉄滓		N－80°－W
P028	暗褐色土	単層	円形	40	30	三角形	26			N－36°－E
P029	暗褐色土	自然堆積	円形	45	40	台形	24			N－46°－E
P030	暗褐色土	自然堆積	円形	59	56	不整三角形	48	土師器		N－10°－W
P031	暗褐色土	単層	長楕円形	72以上	43	台形？	55			N－84°－W
P032	黒褐色土	単層	円形	28	26	筒形	28	カワラケ	P024・034と柵列を構成する可能性がある。	N－37°－E
P033	黒褐色土	単層	楕円形	49	35	台形	28			N－60°－W
P034	暗褐色土	自然堆積	円形	58	58	不整筒形	36		P024・032と柵列を構成する可能性がある。	N－14°－E
P035	暗褐色土	単層	方形	33	32	筒形	34			N－1°－W
P036	暗褐色土	単層	円形	29	29	筒形	25	土師器		N－1°－W
P037	暗褐色土	人為堆積？	方形	54	43	筒型	42			N－74°－W
P038	暗褐色土	単層	円形	23	22	台形	13			N－89°－E
P039	暗褐色土	単層	円形	32	31	台形	19			N－5°－E
P040	暗褐色土	単層	不整方形	40	33	台形	26			N－15°－W
P041	－	－	楕円形	61	49	椀形	21			N－24°－E
P042	暗褐色土	単層	円形	29	26	台形	21			N－24°－W
P043	暗褐色土	人為堆積	円形	44	40	台形	26			N－70°－W
P044	暗褐色土	単層	円形	35	32	三角形	27			N－5°－E
P045	暗褐色土	自然堆積	不整楕円形	54以上	42	椀形	32	鉄製品		N－88°－E
P046	暗褐色土	人為堆積	不整方形	46	36	筒形	33		P048を切る	N－12°－W
P047	暗褐色土	単層	不整楕円形	33	32	台形	19			N－61°－W
P048	暗褐色土	自然堆積	不整円形	50	44	筒型	39		P046に切られる	N－44°－W
P049	－	－	楕円形	32	24	三角形	20			N－17°－E
P050	－	－	楕円形	32	21	椀形	15			N－4°－W
P051	暗褐色土	単層	楕円形	48	41	三角形	30	土師器		N－17°－W
P052	－	－	楕円形	32	26	筒形	14			N－48°－W
P053	－	－	楕円形	25	18	台形	18		SE02と重複	N－89°－E
P054	暗褐色土	単層	方形	47	38	椀形	16		P055を切る	N－5°－E
P055	暗褐色土	単層	方形	51	43	椀形	29		P054に切られる	N－82°－E
P056	暗褐色土	単層	長楕円形	30	17	三角形	21			N－79°－E
P057	暗褐色土	単層	不整楕円形	31	30	台形	39			N－1°－W
P058	暗褐色土	単層	円形	34	23	不整台形	13			N－17°－E
P059	－	－	不整長方形	30	22	台形	12			N－15°－W
P060	暗褐色土	単層	楕円形	57	42	不整筒形	58			N－20°－W
P061	－	－	円形	17	16	三角形	24		SE02と重複	N－6°－W
P062	黒褐色土	単層	不整円形	37	33	椀形	12			N－17°－W
P063	－	－	方形	33	32	三角形	31			N－84°－E
P064	暗褐色土	単層	楕円形	37	26	椀形	6			N－63°－E
P065	黒褐色土	単層	楕円形	40	30	台形	28			N－6°－E
P066	－	－	長楕円形	34	18	台形	12		SE02と重複	N－3°－E
P067	暗褐色土	単層	楕円形	32	26	三角形	20			N－71°－E
P068	黒褐色土	単層	円形	25	23	筒形	23			N－86°－W
P069	暗褐色土	単層	不整楕円形	46	32	筒形	40	土師器		N－71°－W
P070	暗褐色土	単層	長楕円形	52	35	筒形	45			N－25°－W
P071	－	－	楕円形	54	34	方形	23			N－77°－E
P072	－	－	円形	54	48	台形	34			N－79°－E
P073	－	－	円形	50	42	筒形	56			N－56°－E
P074	－	－	円形	42	34	筒形	23			N－82°－E
P075	黒褐色土	単層	不整方形	40	34	椀形	20			N－54°－W
P076	黒褐色土	人為堆積	不整楕円形	68	42	台形	31	須恵器		N－88°－W
P077	暗褐色土	自然堆積	円形	46以上	43	不整三角形	31			N－79°－W
P078	－	－	楕円形	36	29	椀形	19			N－8°－E
P079	暗褐色土	自然堆積？	不整楕円形	41	34	台形	27		SX01に切られる	N－76°－W
P080	黒褐色土	単層	不整円形	36	33	台形	23			N－3°－W
P081	－	－	不整方形	60	58	台形	29			N－29°－W
P082	黒褐色土	単層	楕円形	34	26	台形	22			N－83°－W
P083	黄褐色土	人為堆積	不整楕円形	50以上	50	椀形	30			N－86°－E
P084	黒褐色土	単層	円形	26	23	台形？	18			N－29°－E
P085	黒褐色土	単層	楕円形	50	43	筒形	46			N－10°－W
P086	－	－	楕円形	44	38	三角形	42			N－5°－W
P087	暗褐色土	単層	楕円形	28	24	台形	21		P098・105・108と柵列を構成する可能性がある。	N－53°－W
P088	黒褐色土	単層	不整方形	60	40	台形	25		SX01に切られる	N－71°－W
P089	黒褐色土	単層	長方形	50	39	台形	23		SX01に切られる	N－76°－W
P090	黒褐色土	単層	楕円形	67	54	椀形	19		SX01に切られる	N－11°－W
P091	暗褐色土	単層	楕円形	47	31	椀形	14	土師器	SX01に切られる	N－71°－W
P092	暗褐色土	単層	楕円形	47	31	椀形	12		SX01に切られる	N－71°－E
P093	－	－	－	－	－	－	－		欠番	
P094	暗褐色土	単層	円形	42	41	椀形	9			N－37°－W

遺構番号	主体埋土	覆土堆積状況	平面形態	規模長径(cm)	規模短径(cm)	断面形態	確認面からの深さ(cm)	出土遺物	備考	主軸方向
P095	黒褐色土	単層	円形	40	40	三角形	29	陶器	SX01に切られる	N－21°－W
P096	暗褐色土	単層	円形	41	37	三角形	30		SX01に切られる	N－3°－E
P097	暗褐色土	単層	楕円形	40	29	不整椀形	13		SX01に切られる	N－27°－W
P098	－	－	楕円形	30	24	台形	16		P087・105・108と柵列を構成する可能性がある。	N－11°－E
P099	暗褐色土	単層	長楕円形	58	33	方形	12			N－16°－E
P100	－	－	方形	46	36	椀形	17		SX01に切られる	N－22°－E
P101	－	－	不整方形	62	49	椀形	46	土師器	SX01に切られる	N－76°－W
P102	黒褐色土	単層	円形	27	25	三角形	14			N－18°－E
P103	暗褐色土	単層	不整方形	46	30	台形	20			N－21°－W
P104	－	－	円形	33	32	三角形	25			N－42°－E
P105	－	－	方形	29	28	台形	23		P087・098・108と柵列を構成する可能性がある。	N－1°－E
P106	暗褐色土	単層	円形	27	26	三角形	34			N－63°－E
P107	暗褐色土	単層	楕円形	66	44	椀形	42		SE04に切られる	N－23°－W
P108	暗褐色土	単層	方形	22	20	台形	11		P087・098・108と柵列を構成する可能性がある。	N－50°－E
SK01	暗褐色土	自然堆積	楕円形	60以上	58	椀形	44			N－50°－E



第 29 図　ピット出土遺物実測図

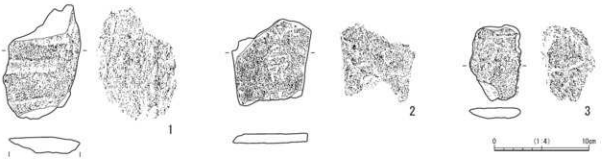
第 10 表　ピット出土遺物観察表

掲載番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率(%)	口径(推定口径)(cm)	底径(推定底径)(cm)	器高〈残存高〉(cm)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
29-1 8-P027-1	P027	銭貨	銅銭	－	－	－	－	－	元祐通寶（初鋳年 1086 年）	－	－	－	
29-2 8-P027-2	P027	カワラケ	口縁部～底部	口縁部～底部	20	(9.0)	(6.8)	1.8	ロクロ成形後指頭により調整を加える。	白色粒・赤色粒・雲母	良好	7.5YR6/3 にぶい褐色	
29-3 8-P045-3	P045	須恵器	坏	体部～底部	10	－	〈7.2〉	〈2.2〉	ロクロ成形、右回転糸切り。体部下端手持ちヘラケズリ、体部内面回転ナデ。	白色粒	良好	10YR5/1 褐灰色	東金子産 9 世紀中葉
29-4 8-P095-4	P095	陶器	鉢	体部～底部	20	－	－	－	ロクロ成形後、体部内外面をヘラ状工具により面取り。高台貼付け。体部内外面、見込部に長石釉を施す。	黒色粒	良好	2.5YR/3 淡黄色	近世

第５節　その他の出土遺物

遺構外遺物（第 30 図　第 11 表　図版８）

出土状況：本調査地点では、試掘時及び表土からも板碑が出土している。遺構外の出土遺物としてここに一括して掲載する。



第 30 図　遺構外出土遺物実測図

第 11 表　遺構外出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	器種	部位	残存率（%）	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	特徴・手法	推定年代	石材	備考
30-1 8-試掘-1	試掘	石製品	板碑	基礎部？	破片	10.5	7.5	17.0	平坦面に平ノミ痕。		緑泥片岩	
30-2 8-試掘-2	試掘	石製品	板碑	身部	破片	8.5	7.9	1.0	側縁断を別の後磨き。供養者名「□七」「藤三郎」		緑泥片岩	
30-3 8-表土-3	表土	石製品	板碑	身部	破片	7.8	5.3	1.1	銘文は判読不明。		緑泥片岩	

第 12 表　遺物集計表

	SA1		SA2		SE1		SE2		SE3		SE4		SE5		SE6		SX1	
	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）
カワラケ			8	165	42	174												
陶器	1	14	3	531	8	378	4	473			6	453	4	388	3	230		
土師質土器			2	83	1	40					1	49	2	595				
磁器			1	14	1	13	3	17										
板碑	1	1180	4	4441	1	1620					2	64						
土師器	9	112	4	36	13	83	3	16			4	79			2	20	5	1381
須恵器	2	40	12	259	3	38											1	4
土製品			1	60														
鉄製品																		
瓦（近世）			15	1881														
石臼	1	2975																
石製品			1	1013			1	149			1	83						
その他											1	47（木製品）			1	52（カキ殻）		
小計	14	4321	51	8483	67	2346	11	655			16	2137	6	983	6	302	6	1385

	SK1		試掘		表土		ピット1		ピット9		ピット15		ピット21		ピット22		ピット27	
	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）
カワラケ	1	6	3	1	13	52					2	2	4	34	1	8	1	9
陶器					7	480												
土師質土器	1	35			2	18												
磁器																		
板碑			3	41	3	28												
土師器			7	21	103	576	3	5	1	2	6	12					1	18
須恵器	1	5			5	34											1	12
土製品															1	5		
鉄製品			1	10														
瓦（近世）																		
石臼																		
石製品																		
その他																	1（銭貨）	2
小計	3	46	14	73	145	1188	3	5	1	2	8	14	4	34	2	13	4	41

	ピット30		ピット32		ピット36		ピット45		ピット51		ピット69		ピット76		ピット91		ピット95		ピット101	
	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）	個数（個）	重量（g）
カワラケ			1	8							4	34								
陶器																	1	8		
土師質土器																				
磁器																				
板碑																				
土師器	3	10			1	4			4	12	1	11			1	47			3	21
須恵器							2	23					1	23						
土製品																				
鉄製品							1	5												
瓦（近世）																				
石臼																				
石製品																				
その他																				
小計	3	10	1	8	1	4	2	28	4	12	5	45	1	23	1	47	1	8	3	21

第４章　まとめ

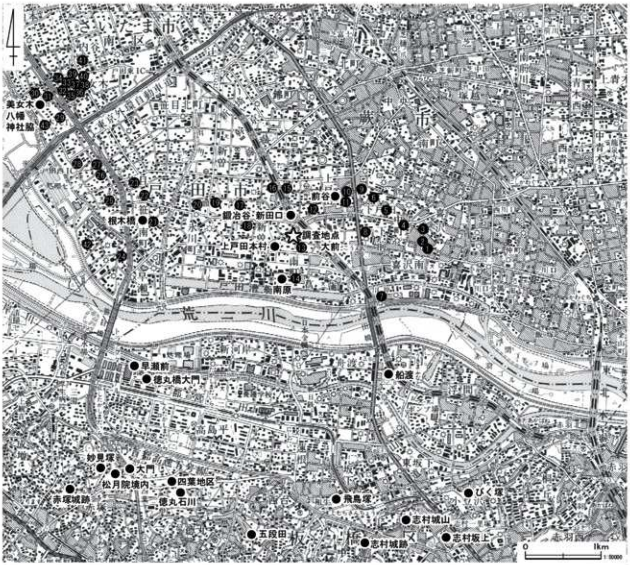
大前遺跡は、今回の発掘調査を契機にその所在がはじめて確認された遺跡である。発掘調査によって、中世から近世初頭の堀２条、井戸跡６基、土坑１基、ピット 107 基、土坑１基が検出され、大前遺跡が中世期を中心とする集落遺跡であることが判明した。

戸田市域ではこれまでに、美女木八幡社脇遺跡、南町遺跡、上戸田本村遺跡、前谷遺跡、南原遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡で、大前遺跡で検出したものとほぼ同時期に帰属する遺構・遺物が検出されている。一方で、これらの中世の遺構が検出された他の遺跡はいずれも、弥生時代後期から古墳時代に始まる複合遺跡である。中世に帰属する遺構の検出数も多いとは言い難く、これまでの発掘調査では当該期の生活や土地利用の在り方などが十分に明らかにできていなかったのが現状である。今回の調査により、大前遺跡が単純遺跡とは言えないまでも、中世期を中心に形成された遺跡であることがわかり、戸田市域においては当該期の生活痕跡を色濃く残した稀少な遺跡であることが判明したのは大きな成果である。

中世の戸田市域は、かつて「佐々目郷」と言われた市西部一帯が、鎌倉鶴岡八幡宮の社領であったということが文献史料からわかっている。また、現上戸田２丁目の「下戸田村元蕨」は、慶長 11 年（1606 年）あるいは慶長 19 年（1614 年）にここから人が移住して蕨宿が形成された“蕨宿の発祥の地”であるという説もあり、蕨宿が形成される以前に渋川氏の居城「蕨城」がこの地に所在していたのではないかとも言われている。さらに、桃井氏の居城であったと伝えられる「戸田の御所」、「戸田城」については、上戸田村の坤（南西）の方向にあったとされることから、その所在候補地に上戸田本村遺跡や南原遺跡などが挙げられることが多い。桃井中務少輔直和が開基とされる海禅寺や多福院（現在は当時と所在地が異なる）が近隣に所在したことから、大前遺跡周辺も戸田城の候補地と考えて差し支えないと考える。

今回の調査では、２条の堀を検出した。いずれも出土遺物から、中世から近世初頭に帰属するものと考えられる。断面形状が薬研状または箱薬研状であることから、これまでの報告例に従い「堀」と報告したが、これが当時どのような性格を有していたかは不明である。しかしながら、いずれも遺構下端付近で湧水し、覆土のグライ化が見られたため、使用されていた当時は常時水を湛えていたものと考えられる。第１号堀は壁に平行するようにピット列が確認されていることから、橋や柵列のような付属施設を伴い、防御的な性格を有していた可能性もある。また、第２号堀は、テラス状の段を有していることから、人が堀の中に下りることができる施設を有していた可能性がある。これらのわずかな証拠から戸田城の堀と断定するには根拠があまりに不足しているが、今後の調査によって周辺の様相が明らかとなっていくことで、今回検出した堀の性格も明確になっていくと考える。

井戸跡は６基検出した。いずれも中世から近世初頭に使用されたものである。戸田市域では、これまでの調査においても中世の井戸跡を多数検出しているが、今回の調査事例で特筆すべきは、その密集度である。特に、第４・５・６号井戸跡はそれぞれが重複して形成されており、切り合い関係からも同時期に存在していたものではないことを確認している。覆土の堆積状況から、洪水等の自然災害によって埋没、使用不可能となったため周辺に新たな井戸を掘り直したものではないことも明らかと



地域名	対照番号	所在	基数
下戸田地域	1	内田　豊平	4
	2	常福寺	3
	3	東京国立博物館（金子武雄旧蔵）	6
	4	正覚院	5
	5	薬師堂	2
	6	長野日出夫	1
	7	地蔵堂	1
	8	熊木　輝雄	1
	9	浅香　藤吉	3
	小計		28
上戸田地域	10	熊木　幸雄	1
	11	光明寺	2
	12	海禅寺	1
	13	多福院	5
	14	秋葉　マサ	1
	小計		10

地域名	対照番号	所在	基数
新曽地域	15	梶木健次郎	1
	16	元常楽院	36
	17	観音寺	37
	18	細井　敏治	6
	19	榎本　源一	4
	20	妙圓寺	8
	小計		92
下笹目地域	21	栗原　満	1
	22	元宝蔵院	4
	23	長谷川泰弘	1
	24	元常光寺	1
	25	平等寺	31
	26	中島　孝雄	1
	27	大脇　米蔵	2
	小計		41

地域名	対照番号	所在	基数
美女木地域	28	戸田市立教育研究所（美笹中学校付近）	7
	29	萩原座左衛門	4
	30	鶴岡　洋治	4
	31	穂坂寺	2
	32	妙蓮寺	13
	33	小泉　朝吉	1
	34	萩原　一郎	1
	35	吉野　良雄	1
	36	石井直次郎	1
	37	秋元　常美	2
	38	秋元　平次	2
	39	秋元　利夫	1
	40	秋元　吉尾	5
	41	元安養寺	2
	小計		46
圏外地域	42	夏浜の墓地	13
	43	石井　廣光	4
	小計		17
	合計		234

第 31 図　大前遺跡周辺の中世遺跡位置及び板碑所在

なっている。そして、遺物の出土状況は、井戸廃絶時に不要品を投棄したことを示しており、井戸の廃絶が意図的なものであった可能性を指摘できる。なぜ、井戸を廃絶したのか、また、なぜ周辺に井戸を新たに掘り直したのかという問題については今後の検討を要するが、井戸が密集して作られたことは、本調査区周辺の地下水位が低く、容易に取水できるということを当時の人々が知っていたという背景を示唆するものである。

当時の人々の居住を示す可能性がある遺構として、ピット 107 基と土坑 1 基を検出した。調査区が狭小であったため、明確にその性格を判断できたものはないが、これらのピットや土坑の一部は柵列や掘立柱建物の一部を形成していた可能性が高い。また、第 27 号ピットから北宋銭「元祐通寶」が出土していることは、周辺に当時の人々の生活空間が広がっていたことを裏付けるものである。

今回の調査では、第 1 号堀から 1 点、第 2 号堀から 4 点、第 1 号井戸跡から 1 点、遺構外から 3 点、計 9 点の板碑片が出土した。残念ながら明確に年号が読み取れる資料はなく、また小破片のものが多かったが、調査区の面積を勘案すれば比較的多い出土量であったと言える。戸田市においてこれまでに確認されている板碑資料は 230 点以上を数える（第 31 図）。市内最古の板碑は建長 5 年（1253 年）7 月 25 日の記年銘が入った資料（観音寺資料。郷土博物館保管。）である。今回の調査によって 13 世紀中葉から市域に生前供養または追善供養という武士の文化が流入し、広まっていく過程を考察していく上で重要な資料を得ることができたと考える。

結語

中世の戸田の人々の生活や文化は、これまで文献史料からの推測に頼るところが大きかった。今回の発掘調査では、中世を中心に形成された遺跡の発見と、これに伴う多くの遺構・遺物を検出することができた。このことは、地域の歴史を正しく理解し、検証するための基礎材料を得たという点で大きな成果であると考える。

今後、今回の調査で得た資料と文献史料を相互に比較、検討していくことによって、より大きな成果が得られるものと考える。

引用文献・参考文献

早田利宏ほか　2010『南原遺跡Ⅸ』戸田市文化財調査報告ⅩⅦ　株式会社プロネクサス・大成エンジニアリング株式会社・戸田市教育委員会

永井久美男編　1994『中世の出土銭－出土銭の調査と分類』 兵庫県埋蔵銭調査会

塩野博ほか　1981『戸田市史　資料編 1　原始・古代・中世』 戸田市

岩井聖吾ほか　2013『南原遺跡 XI』戸田市文化財調査報告ⅩⅦ　埼玉県戸田市教育委員会

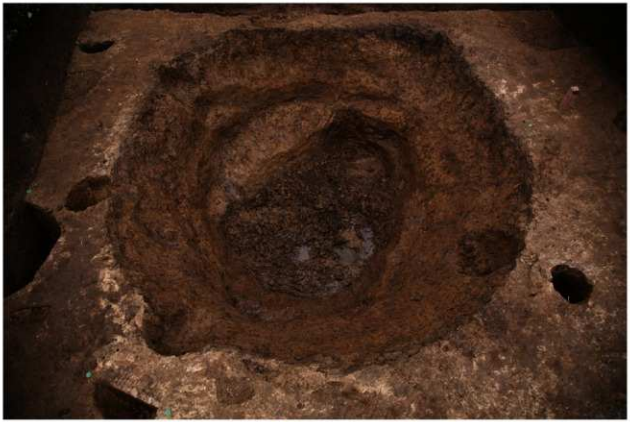
岩井聖吾　2014『前谷遺跡Ⅱ』戸田市文化財調査報告ⅩⅨ　埼玉県戸田市教育委員会

大川清・鈴木公雄・工楽善通編　1997『日本土器事典』 雄山閣

1　調査区空撮モザイク写真

1　調査区全景（北より）

2　調査区遠景（南東より）



1　第１号井戸跡調査終了状況（南より）

2　第１号井戸跡遺物出土状況（南より）

3　第２号井戸跡調査終了状況（東より）

4　第３号井戸跡調査終了状況（東より）

5　第１号井戸跡調査風景（北より）

1　第４・５・６号井戸跡調査終了状況（東より）

2　第４・５・６号井戸跡遺物出土状況（東より）

3　第４・５・６号井戸跡調査終了状況（北より）

4　第１号堀完掘（東より）

5　第１号堀遺物出土状況（南東より）

1　第2号堀完掘（東より）

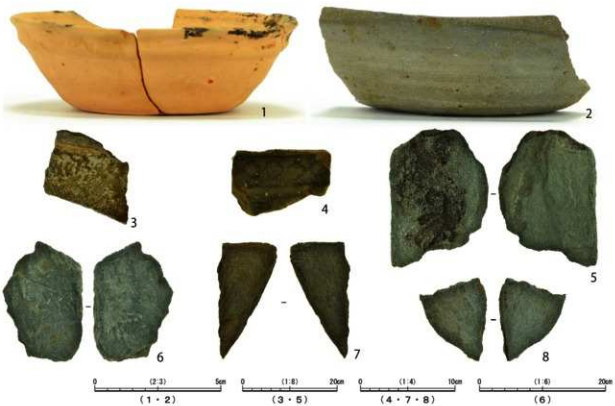
2　第2号堀遺物出土状況（南より）

3　第27号ピット元祐通寶出土状況（南より）

4　ピット完掘状況・調査区北側（南東より）

5　ピット完掘状況・調査区南側（北東より）

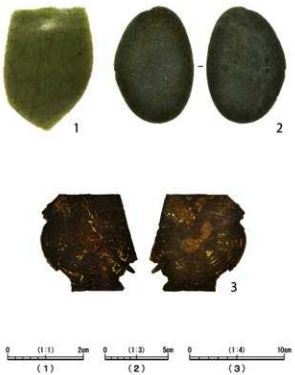
第１号堀出土遺物（SA01）



第２号堀出土遺物（SA02）

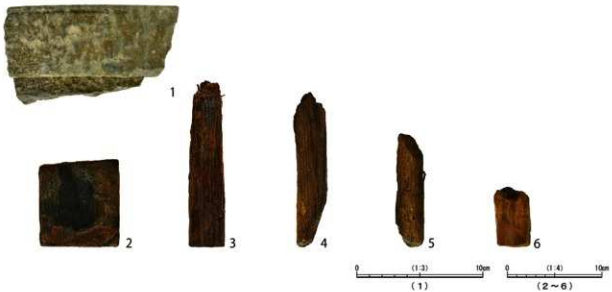
第１号井戸跡出土遺物（SE01）（１）

第１号井戸跡出土遺物（SE01）（２）

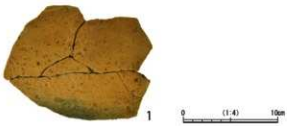


第２号井戸跡出土遺物（SE02）

第４号井戸跡出土遺物（SE04）



第５号井戸跡出土遺物（SE05）



第１号性格不明遺構出土遺物（SX01）

ピット出土遺物（P027・P045・P095）

遺構外出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおまえいせきいち　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	大前遺跡Ⅰ　埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	
巻次	21
シリーズ名	戸田市文化財調査報告
シリーズ番号	
編著者名	岩井聖吾、岩崎岳彦
編集機関	戸田市教育委員会
所在地	〒335-8588　埼玉県戸田市上戸田 1-18-1　℡.048（441）1800
発行年月日	西暦 2015（平成 27）年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
大前遺跡 （おおまえいせき） 第1次調査 （だいいちじちょうさ）	戸田市本町3丁目 （とだしほんちょう） 1902番1	11224	06-013	35° 48′ 32″	139° 40′ 23″	13.10.01 ～ 13.11.1	170.00	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大前遺跡	集落跡	中・近世	堀　2条 井戸跡　6基 ピット　107基 性格不明遺構　1基	土師器・須恵器・カワラケ・板碑・陶器・磁器・石製品・木製品	

要約

本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である大前遺跡の範囲に属し、JR 埼京線戸田公園駅から西に約 400 m、戸田駅から南西に約 1,000 mの戸田市本町３丁目 1902 番１に所在する。

大前遺跡は、荒川によって形成された平坦な沖積地（荒川低地）に、氾濫や流路変更によって左岸に発達した自然堤防上に立地している。

調査の結果、中世から近世初頭の堀２条、井戸跡６基、土坑１基、ピット 107 基、土坑１基を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器や、中世陶器、木製品、板碑、磁器、北宋銭（元祐通宝）等を検出した。

発掘調査によって、調査区周辺が中世の居住域の一角であり、文献史料に見られる桃井氏の居城「戸田城」の所在候補地の一つに数えられる可能性があることが判明した。

戸田市文化財調査報告　ＸＸＩ

大前遺跡 Ⅰ
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行・編集　埼玉県戸田市教育委員会
〒335-8588　埼玉県戸田市上戸田１－18－１
TEL　048(441)1800
印　　刷　関東図書株式会社
埼玉県さいたま市南区別所３－１－10
発　行　日　平成27年３月25日